

令和8年第1回会津坂下町議会定例会会議録

令和8年2月26日から令和8年3月11日まで第1回定例会が町役場に招集された。

令和8年3月3日 午前10時00分

1. 応招議員（14名）

1番 高久敏明	2番 五十嵐孝子	3番 目黒克博
4番 物江政博	5番 横山智代	6番 小畑博司
7番 佐藤宗太	8番 五十嵐正康	9番 青木美貴子
10番 五十嵐一夫	11番 水野孝一	12番 酒井育子
13番 山口享	14番 赤城大地	

2. 不応招議員（0名）

3. 出席議員は応招議員と同じ。

4. 欠席議員は不応招議員と同じ。

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長	鈴木久	書記	高久佳菜
書記	松本功		

6. 地方自治法第121条の規定により説明のため議場に出席した者の職氏名

町長	古川庄平	副町長	板橋正良
教育長	鈴木茂雄	総務課長	佐藤秀一
政策財務課長	長谷川裕一	生活課長	五十嵐隆裕
建設課長	古川一夫	産業課長	渡部聡
庁舎整備課長	遠藤幸喜	会計管理者	五十嵐利彦
教育課長	蓮沼英樹	子ども課長	小瀧節子
監査委員	仙波利郎		

◎開議の宣告

◎議長（赤城大地君）

ただいまの出席議員は14名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。（開会 午前10時00分）

◎議長（赤城大地君）

本日の議事日程は、お手元にお配りした議事日程（第3号）のとおりであります。

◎会議録署名議員の指名

◎議長（赤城大地君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員として、4番、物江政博君、5番、横山智代君のお二人を指名いたします。

◎一般質問

◎議長（赤城大地君）

日程第2、これより一般質問を行います。

まず、通告により、5番、横山智代君、登壇願います。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）（登壇）

おはようございます。5番、日本共産党、横山智代でございます。通告の順に従い、一般質問を行います。

私たちは今日も穏やかに、いつもと変わらぬ朝を皆さん迎えられたと思います。今、地球の終末時計をご存じでしょうか。地球の終末時計は昨年比4秒進み、地球の破滅まで残り85秒となったそうです。終末時計の針を早めた要因は、気候危機などとともに、核大国による戦争と核兵器の脅威によるものです。

世界では違法な戦争が行われています。去る2月28日、アメリカとイスラエルがイランに対して大規模な先制攻撃を行い、死者は2,400人以上に上っているそうです。そして、残念なことに、小学校が攻撃され、死者数は100人を超えると伝えられています。今、私たちがここで穏やかに暮らしているその裏側では、寒さに震え、そして食料も手に入らず飢えに苦しむ人たちが。住むところも奪われる。そして戦火に怯えながら暮らしている人たちのことを思うと、とても胸が痛みます。この平和な日本のこの今の時期、これが本当に続くのか。皆さんの声を上げて、この平和な日本が続くことを皆さんと共に願わずにはいられないと思います。

アメリカの首都ワシントンでもデモが行われました。これに対し、このアメリカとイ

スラエルとのこの先制攻撃に対し、日本の高市首相はアメリカに対して一言の批判もしていません。今、日本の首相として厳しく非難し、そして攻撃の即時中止を求めるべきではないでしょうか。

今、私たち日本では食料自給率が38%にまで下がっております。今回は、農業の振興についておたしするものです。

昨年の米不足の原因には、需要に応じた生産として、農家に減産を押しつけてきた農業政策の失敗があります。農家が安心して米作りを続け、国民が安心して日本のお米を食べられる社会の実現が重要です。今の日本の自給率は38%です。日本の備蓄米とされるものは現在30万トンほど。中国は1年半の年間備蓄があるそうです。フランスは常に120%を超える高い穀物自給率です。私たちの食料は大丈夫なのでしょうか。そして、この会津坂下町は、農業が基幹産業であることに対して、やはり真剣に私たちも捉えていかなければならないのではないかと考えております。

町の第六次振興計画（後期基本計画）実施計画が示されました。一つ目として、重点施策として、担い手の確保が掲げられています。担い手はとても重要なものですが、その前に、町の農産物の付加価値を高め、坂下町の農業を希望を持って従事できるようなものに、農業者の方々と一緒に取り組むことは必要なのではないかと私は思っています。それについての町の考えを伺います。

二つ目、2017年に国連で採択された「家族農業の10年」、2019年から2028年のものです。今、家族農業の重要性が世界で大変注目されています。また、2026年は、今年ですね、国連女性農業従事者の年（国際年）と言われています。農林水産業だけでなく、流通や加工など食料システムに関わる全ての女性を対象にしています。世界で働く女性の41%が農林水産業をはじめ食料システムのどこかで雇用されている状態ですが、これらの業種に関わる女性たちの持つ力や役割にもっとスポットライトを当てることが国際年の根底にあります。世界全体の大部分を占める家族農業。家族農業に占める女性の役割は大変大きなものです。最近は農業女子と呼ばれる人たちも多くなっているようです。坂下町の農業女子の取組、そして、それを大きく広げていくことに対しての町の考えを伺います。

三つ目に、農業人口が少なくなっている中での持続可能に生産を続けることに対するその施策、考えを伺います。

第2として、循環型社会の形成について伺います。

第六次振興計画（後期計画）の中にも出ておりますが、一つ目、ゼロカーボン推進事業が掲げられていますが、ゼロカーボンシティをこの坂下町は宣言する考えはあるのでしょうか。

二つ目、エコ活動や脱炭素化につながる情報発信、啓発活動だけでは今までと変わらず、前進するのは難しいと思われますが、どのように進められるのでしょうか。その考えを伺います。

三つ目として、今までのごみ減量化、リサイクル推進事業の進捗状況と、効果と、その問題点について伺います。

以上をもって壇上からの質問を終わります。

◎議長（赤城大地君）

答弁願います。

◎町長（古川庄平君）

議長、町長。

◎議長（赤城大地君）

古川町長。

◎町長（古川庄平君）（登壇）

おはようございます。5番、横山智代議員のおただしのうち、私からは、ご質問の第1の1についてお答えいたします。

本町農業を取り巻く環境は、少子化や人口減少を背景に、後継者不足による農業従事者の高齢化や担い手不足が顕著であり、持続可能な農業を確立し、農業、農地が持つ多面的機能を維持、発揮するためには、担い手の育成、確保が重要な課題となっております。また、高温や少雨などが常態化する異常気象を背景にした農産物の品質や収量の低下は、農業所得の減少につながり、営農継続への不安感が生産意欲の低下を招き、地域経済の低迷や農業に対する魅力の低下につながる大きな課題であると認識しております。

議員おただしのとおり、農産物の付加価値向上は、農家所得の確保とともに、本町農業を持続可能で魅力ある産業として確立し、担い手の確保にもつながる大変有効な取組であり、本町における農産物の付加価値は、企業を含めた消費者の方々に買い続けていただける、安全性や環境負荷に配慮した高い品質の維持と安定した生産量の確保であると考えております。

現在、若手農業者で構成する会津坂下町次世代農業者会において、四つの専門部会を設置し、部会ごとに新たな栽培方式や品種の導入、農産物の販路拡大や地産地消等、農産物の付加価値向上につながる取組や、スマート農業・先進的技術導入による持続可能で収益性が高く、将来に希望を持てる農業の実践を町と共に進めているところであります。

町では、このような若手農業者が先駆的な取組に挑戦する姿は、生産現場に勇気と活力を与えるとともに、実証された技術等が地域内に普及することで、持続可能な農業の確立や担い手の確保につながるものと確信しております。今後も農産物の付加価値向上を含む若手農業者の様々な取組を最大限支援していくことで、本町農業の振興を図ってまいります。

その他のご質問につきましては担当課長より答弁させますので、よろしくお願いいたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

おはようございます。私からは、ご質問の第1の2と3についてお答えいたします。
初めに、2についてお答えいたします。

今年は国連の定める女性農業従事者の年であり、農業をはじめとする世界の食料システムにおいて多くの重要な役割を担っている女性の活躍をたたえる年であります。

本町においても地域農業の中で女性が担っている役割は大きく、営農活動のみならず、加工や販売、地域での交流など、幅広い分野で農業を支えていただいております。女性が持つ独自の視点や感性、きめ細やかさ、元気、明るさは、地域農業の活性化に必要不可欠であると認識しております。特に消費者ニーズを踏まえた商品開発やブランディング、SNSを活用した農業の魅力発信等の分野において、今後も活躍が期待されます。

さらに、近県では、ドローンのオペレーターとして女性農業者のチームが活躍していることから、スマート農業の普及と併せ生産現場での活躍の幅も拡大していくものと考えております。本町においても農業を職業として選択する女性も増加してきており、本町農業に新たな風を吹き込んでおります。今後も先進的な取組事例を参考とし、県農業普及所やJA等の関係機関と連携し、女性農業者が農業分野でさらに輝ける場を創設してまいります。

次に、3についてお答えいたします。

本町の農業人口は、2020年の農業センサス調査では、基幹的農業従事者数が1,103人、2015年と比較して302人、21.5%減少しております。2025年の詳細な調査結果はまだ公表されておりませんが、福島県全体の数字が5年前から27.8%減少していることから、本町でも同様に減少していることが予想されます。

農業人口の減少は、地域経済の縮小や耕作放棄地の発生、農村コミュニティの縮小による農業・農村が持つ多面的機能の低下など、広い分野に大きな影響を与えることから、極めて重要な課題であると認識しております。町では1月から、集落における農業者の現状把握と新たな課題等の掘り起こしのため、全集落での懇談を行い、その中で、現状や課題が農業者ごとに異なり多岐にわたっていることが明らかになりました。

本町農業においては、大規模農家だけではなく、中小規模農家も地域農業の重要な担い手として位置づけていることから、今後も年間を通して継続的に実施していく懇談会や日々の窓口相談等を通して、農業者一人一人の目指したい農業経営の方向性に寄り添いながら、直面する課題に丁寧に向き合い、共に解決策を見いだしていくことで、担い手の持続可能な農業の確立につなげてまいります。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

おはようございます。私からは、ご質問の第2についてお答えいたします。

初めに、1についてお答えいたします。

町ではこのたび地球温暖化対策実行計画を策定し、これに伴い、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指しており、各関係機関と調整の上、次年度にゼロカーボンシティ宣言をすることを考えております。ゼロカーボンシティ宣言をすることにより、環境に配慮し、どう達成するかを町の内外に向けメッセージを発信したいと考えております。

次に、2についてお答えいたします。

町では広報やホームページなどで情報発信や啓発活動を行っておりますが、従来の手法ばかりでなく、SNSの活用、事業者との連携、公共施設の省エネルギー化、町民の自発的活動の後押しなど、考え得るあらゆる手法を駆使して、成果を上げられるよう工夫しながら進めてまいります。

次に、3についてお答えいたします。

町では、平成7年から資源物の分別収集、平成22年からごみの有料化を近隣の市町村に先んじて行ってきており、家庭系可燃ごみの1人1日当たりの排出量は、令和6年度の実績値では492グラム、ごみの広域処理をしている会津若松地方広域市町村圏整備組合を構成する10市町村の平均536グラムを下回り、少ないほうから2番目となっており、成果を上げているものと捉えております。問題点としましては、昨年の熊騒動以降、コンポストなどによる生ごみの自家処理がしづらくなったこと、再利用できるプラスチック類や古紙類などがごみに混入している実態があること、リサイクルとして出せるものやその状態の理解が不十分であることなどが挙げられます。ごみ減量化やリサイクル率向上のために、誰もが一目で分かるよう、写真やイラストを使って示すことなどにより、一層成果を上げられるよう取り組んでまいります。

◎議長（赤城大地君）

再質問があればお願いいたします。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

それでは、順番に従って再質問させていただきます。

会津坂下町でも、ご多分に漏れず、高齢化や担い手不足というのは顕著だということは私たちも存じておりますが、これに対し、やはり具体的にどのぐらい減少して、それがどんな形で、今、問題化されているのかというのは、具体的にお分かりになっているんでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

どれほど数的に減少しているかという部分につきましては、先ほど申し上げましたとおり、センサスに基づいた数字でしか把握していないのが現状でございますが、現状として、農業者に対して文書などを配付している数からすると、1,100名程度、現在いらっしゃると思います。ただし、それは本当に自作をされて経営をされているかどうかという部分ではなくて、農地を所有しているという現状の状況の中で、1,100人程度に文書などを配付しているというところになっています。

現状の課題として捉えているところにつきましては、やはり少子高齢化、それから後継者不足というところが一番の課題でありますので、中でもやはり会津坂下町の場合につきましては、農地の約半分を中小規模農家さんが担っているという状況があります。徐々に大規模農家さんのほうに集積が進んでいるという状況がありますけれども、やはりまだ中小規模農家さんに担っていただいている役割というものはかなり高いというふうに考えております。その中小規模農家さんにできるだけ長く農業経営を継続していただきたいという思いが私たちにもありますので、それを実現するために何ができるのかというところにつきましては、今後も引き続き、集落の懇談会などを通して、一人一人に寄り添った形で、一つずつ課題を解決していきたいというふうに考えております。

農業者の方がそれぞれ持っている課題も、1,100人いれば1,100通りございますので、できる範囲については、それほど、一気にできるということではございませんが、一人一人、課題と一緒に向き合いながら、解決策を見いだしていきたいという考えでおります。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

国の農業政策が、主に今はスマート農業、それからあとは大規模農業、そしてあとは工業化というか、そういった形に移行しているというか、そっちのほうに力が向いているように思うんですが、まだまだ、坂下ももちろんですけど、日本の農業というのは、中小農業、特に小さい、それこそ各家庭の家族農業、そういったものがもう半数以上を占めて、それが主体になって今の農業が続けられていると思いますし、今、私たちが安心して食料を供給できるというのも、そういう方たちのおかげでもって成り立っているというふうに思うんですが、今のお話を伺っていて、結局、農業の人たちと一緒に話し合いながらと言いますけれど、個別に話すことによっても、まだまだそれでは、収量、

それから、そういった経営の安定化というものにはつながっていかないと思うんですね。

須賀川にある農協の直売所「はたけんぼ」がありますけれども、あそこなんかを拝見しますと、小規模農家の方たちがたくさん持っていますけど、ある方は1人で何十品目も生産し、そしてそれがとっても好評で、それについて、その方は、その時期その時期にはほかの方が作っていないもの、その隙間を埋めるようなもの、そういったものを上手に取り入れて、とっても収益を上げていると。そういう方もいらっしゃるお話も聞きますので、逆に町のほうから提案して、皆さんと一緒に何人かと、というか、全体では難しいと思いますが、そういった中で、どんなものが作れて、この時期に何が少なくて、どういったものを作ればさらに販路が広がるとか、そういった個別プラス集落の中の何人、または同じようなものを作っている方たちの中のそういったお互いの情報交換をしながら、そういった組合せの支援というのは不可能でしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

結論から申し上げますと、不可能ではないというふうに考えています。道の駅を見ましても、かなり農産物の需要というものはかなり高いというような状況になっております。そういった中で、やはり坂下町、それから湯川さんもそうですけれども、今、地域の中にある野菜なんかを出荷していただいておりますけれども、季節によってはやはり端境期となって、出荷されない品目なんかもありまして、そういったものについては市場のほうから仕入れをして、お客様の需要にお応えしているというのが現状でございます。これは農協の直売所においても同じような形だというふうに認識をしておりますので、今、議員がおっしゃいました、そういった取組、必要性を感じておりますので、機会があるごとにそういった提案なんかもしていきたいというふうには考えております。

ただし、やっぱり坂下町は水田を中心とした農業形態が中心でございますので、野菜であればやっぱり畑を活用してということになります。そういったところについても、今の現状、生産者の現状なんかを把握しながら、対応できるようなことをこれから模索していきたいというふうに考えます。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

そこに併せて、その後に出てくる女性農業のそういった方たちも、いろんな、町の中でいろいろイベントをやると、そういう女性農業者の方が数多く見られるようになります。

したが、彼女たちが持っているノウハウというのは、今まで農業をされていた方たちとはまた違った、特に若い人たちは新しい感覚で、そして自分たちの持っているアイデンティティー、その他、そういったものをすごく前面に出しながら、今までと本当に違う明るい農業のイメージ、そして農産物に対してもそういったものがすごく感じられると思うんですね。

そうですね、フリーマーケットとか、それからよくやるマーケットなんかで見ると、本当にちょっとした小さなものでも、彼女たちの感覚で、ラッピングにしても何でもやっぱり違ってくる。そうすると自然にお客さんもまた変わってきますし、進めるときに、中小の農家の方、プラス、やはりそういう女性の人たちも一緒に交えた中で、何も女性を上にとかというそういうことではないんですけれども、そういった人たちと一緒に、今まで農業をやっていたらっしゃる方ももちろんですけれども、一緒に交えたような、そういった話合いというのは、これから持つというようなことはできないでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

今、横山議員のほうからいただきました、女性ならではの感性といいますか、視点を一番の売りにしながら、すごく丁寧に農作物を作っていたらっしゃるなというのが私としても感想として持っております。そういった女性の方たちの、女性に限らず男性の方でもそういうこだわりを持ってやっていたらっしゃる方もいらっしゃいますので、そういったところについても、何らかの支援、意見交換なり、そういったものができるような環境が取っていければなというふうに私自身も考えております。

ただし、やっぱり農業経営というところを支えていく。それがやはり坂下町の持続可能な農業生産につながっていくんだというふうに考えておりますので、そこら辺は、何といいますか、役割を私たち自身も気持ちの中で明確化しながら、それぞれの立場というか、経営状況に合わせて、丁寧に対応していけたらいいなというふうに考えております。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

会津坂下町だからこそできることというのもあるとは思いますが、ほかの地域と同じようなことをしては、私はまだまだ駄目だと思いますし、できることであれば、やはり坂下だからできたこととか、逆に、坂下の中でも大きな農業者の方たちがたくさん

増えていますが、それでは、大規模農家で作るものというのは、ある程度もう決められた品物がどんどん出てきますけれども、それだけじゃなくて、本当に、坂下ってすごいねと、魅力あふれるものを私は求めている人が大勢いると思うんですね。

だから、どこでも作っているようなものとか、そういうものではない。そういったものも、これから持続可能な農業を続けていくには、みんなどこでもやっているものではない中で、そして坂下の魅力を発揮できるようなもの。ちょっとあまりにも欲張りかもしれないけれども、だからそういう中で、そこに女性も、そして今までの農業も、決して表には出ませんでした、各農家の方々、大きい農家も小さい農家も、みんな陰で女性が必ず縁の下で力持ちで、みんな女性がいることで家庭内農業を支えていたという、そういう力はものすごくあると思いますので、そういう方たちのやっぱり話を聞く機会をぜひ持っていて、そういう女性たちの意見を多く取り入れ、そして、坂下の農業の魅力というものをこれから引き出してつくり出してほしいと思うんです。

何回かお仕事のお手伝いをさせていただいて、東京に坂下の農業者の移住・定住、そういったものの説明会に伺ったときに、前にもお話ししましたが、あまりにもPRする内容、それから資材が乏しくて、ほかのところはもう壁面いっぱい、あふれる笑顔と輝くような産物と、そういったものが一面に、写真とかそういったものに、ポスターに作り出されているのに、坂下は残念なことに、どこに向かっているのか分からないけれど、何人かで横に並んで歩いていく後ろ姿とか、それから田植をしている姿を見れば、どうしてなんだろうと思うんですけど、田植をしていて、田植、苗を植えているお尻、後ろ姿をポスターにするという発想自体、だからすごく後ろ向きなのかなと思ってしまいうので、もっと明るく、あふれるような、ほかの北海道とか長野とかはすごく魅力があふれて、いっぱいお話を聞きに行くところにみんな並んでいるんですね。坂下は誰も来ないんですよ。ですよ。お尻しか写っていないポスターとか、それから背中を向けていて、どこに向かっているか分からないようなポスターなんて。

だから、そういうところからもすごく積極性に欠けるのかなと思うので、まず、ここに来るとすごくみんなが希望を持てる。そういった農業と一緒にやりませんかでもいいですし、そういった資材もこれから考えて、ぜひ坂下をPRする、一度、農業というものを、坂下の農業をこれから明るいもので知らせてほしいと思うんですが、それについてはいかがでしょう。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

ありがとうございます。横山議員のおっしゃるとおりだというふうに私も思います。やはり女性の独特の感性、明るさというものは、先ほど縁の下という表現をされましたけれども、縁の下ではなくて、何とか表舞台に出てきていただけるような、そういつ

た活躍の場、そういったものを創設できるように、現在、若手の女性農業者も専業で、それこそ水稲であったりキュウリであったりということで、自営を目指して今取り組んでいる方もいらっしゃいます。若手の農業者も様々なチャレンジをしているということもありますので、この会津坂下町の農業現場が若者を中心としながら、元気に明るくなるような取組を模索しながら、一つ一つ実現をさせていきたいというふうに考えております。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

これからますます魅力のある坂下町の農業ということを発信していただきたいと思います。

次に、循環型社会のほうに移ります。ゼロカーボンシティについてですが、ゼロカーボンにするには、まだまだ2050年度までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロに近い状態まで持っていくということが一番の目的なんですけれども、それに対して、これから、これからといってももう少ししかないと思うんですが、こういった形でそれを推進、推進というよりも、ゼロカーボンに向けて、特に力を入れたい。力を入れてこれから進めるということはどういうことなのでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

これは様々な取組が考えられるとは思いますが、まず家庭から出されるごみの中で、焼却に回せば当然二酸化炭素が出ますので、焼却するものを減らしていくということ。それからあと事業系のごみでも、ごみの減量であったり、あとはもう分別して、せっかく分別されたものが結局焼却に回っちゃったりしているというような実情もあるようですので、そういったまだまだ焼却をせずに処理ができるものが焼却に回っているというような実態もありますので、そういったところを改善していく必要があろうと思います。

これまでは一般家庭向けの啓発活動を中心にやってまいりましたが、今回新たな計画を策定しまして、事業者とも連携して進めていける体制も構築できました。その中で、事業所の方といろいろな意見交換をしながら、こういったことが取り組めるんじゃないかということを町全体として取り組める体制が整いましたので、そういったところでもいろいろと意見を交わしながら進めてまいりたいと考えております。

◎ 5 番（横山智代君）

議長、5 番。

◎議長（赤城大地君）

5 番、横山智代君。

◎ 5 番（横山智代君）

ごみを燃やせば、結局ダイオキシンが発生したりとか、重金属の有害物質が発生する。最近では、問題になっているのは、環境ホルモン物質の P F A S、これらの被害がこれから現れるのではないかと、そういったようなことも懸念されます。

そして、そのほかに、焼却した後の残渣、その中からは、もうあらゆるものが環境汚染物質が出てきているとか、今の段階で、検査の段階で、水銀まで今度検査の段階に加わるような、そういったこともやっと出てきたようですけれども、その中に、今、課長がおっしゃった事業系のごみ、そういったものは、これから、もちろんそういうふうに事業者の方たちというか、集配業者の方ともお話は進んでいると思いますが、それを徹底して行わなければ、これから難しくなると思いますので、その辺、徹底して、あとは逆にこういったことを広くいろんな人にお知らせすることも必要なんじゃないかと思えます。

それで、今まで広報とか文書で知らせても、やはり分かりにくいと思うんですね。その辺をどういうふうにこれから啓発活動をされていくんでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

これまでの啓発活動は、広報紙とか、そういった書類による媒体、紙媒体による啓発というものが中心でした。ですが、最近は町の L I N E を見て、広報を見ているよという方であったり、ホームページにも掲載をしております。文字よりもイラストとか映像とか、そういったもののほうが住民としては理解しやすいというふうに捉えておりますので、そういったイラスト、映像、そういったものをふんだんに活用して、例えばパンフレットであったり SNS であったり、あるいは L I N E でもいつでも見られるようにするとか、そういった視覚的に捉えて理解できるような、そういった取組をさらに広めていく必要があるかなというふうに感じております。

◎ 5 番（横山智代君）

議長、5 番。

◎議長（赤城大地君）

5 番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

お隣の若松市はこの4月からごみの有料化が始まりますが、その前に、それに向けていろんな市民に向けて出したパンフレットは、全てきれいなイラストもしくは写真、それもカラーで分かりやすく、そういった形で出てきています。SNSとかホームページを活用するのは、やはり若い人たち、そういった方たちが中心になります。確かに若い人たちにごみのそういったものを徹底してもらうのには有効かもしれませんが、若い人たちの中でも、町のホームページにつないでそれを確認するという人がどれだけいるのか。それもありあやふやなものじゃないかと思われます。

そういった中から、直接やっぱり町の役場の職員の方たちがいろんなところに出向いていって、そういったものを媒体にしながら進めていくということもこれから必要じゃないかと思われます。

先ほど来、ごみの出し方もいろいろあると思いますが、ごみ袋の中に、本来だったら資源物として出されるものが入っていたりとかというふうにおっしゃいますけれども、今の、以前から私、いつも、横山智代はごみ袋ごみ袋とよく言われていましたが、またあえて言いますけれども、黄色いごみ袋では中身が見えない。そして、見える半透明の袋というのは必要じゃないかと思ひます。

例えば、今、広域の中で、10市町村で、焼却施設を有効に活用するというような形で出るのであれば、10市町村の中で、皆さん同じ規格で、同じごみ袋というような形の提案はできないんでしょうか。そのときに、黄色いごみ袋では分からない。半透明の袋で、そしてみんな同じようなものの中でやっていくことによって、中に入っているもの、そういったもののやっぱり区別が見やすくなるとか、そういうことにもつながってくるんじゃないかと思ひますし、そういったことをこの坂下町だけではなくて、広域10市町村、そういったところにも一緒になってこれから取り組んでやっていくということは、考えはないでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

広域圏を構成する10市町村で統一したごみ袋という話は、平成5年、6年くらいに、広域市町村圏整備組合で受け入れるごみ袋を、炭酸カルシウム入りの袋でないと受け付けませんというふうになったときから、そういった話はこちらのほうからも出しております。市町村それぞれで作るのではなくて、広域圏全体で統一した袋というような話をその当時から出しておりますが、なかなか10市町村の足並みがそろってというようなところまで至っていないというのが現状でございます。

ごみ袋も、半透明のというようなご提案も今ございましたけれども、ちょっと半透明にすると、今度、中に出されているものが透けて見える。それでプライバシー云々とい

うようなこともあって、そういった半透明の袋を敬遠するような意見もございますので、そういったところも含めて、また、10市町村で統一した袋はできないものか、そういったところも含めて、こちらのほうからも改めて話題として出していきたいと考えております。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

とにかくこれからゼロカーボンを目指すのであれば、さらなるエコ活動とかごみの減量化、そういったものはどんどん、もうこれからもっともっとやっていかなければいけないことだと思うんです。

今、異常気象と言われていますが、それも二酸化炭素の排出量の、それも原因になっているだろうということで、これは全世界的に地球規模で考えなければいけないとても重要な課題だと思いますので、そんな中で、きっちりと、坂下の場合はよっぽど分別はできているというふうには言われていますが、あの黄色いごみ袋は半透明よりもさらに中身が見えない。そんな状態なので、これについてはもっともっと考えていただいて、どういったら、どうしたら減らす一助になれるのかということもこれから考えていただきたいということと、啓発する上で、みんなのごみの出し方が、CO₂の削減、そういったものの足を引っ張ったりとかということにもなるということも一緒に伝えていかなければ、どうしてごみを減らせと言っているのかということが分からない人もたくさんいると思います。

そんな中で、今、まちづくり懇談会の中で出されていた生活課からのお話の中に、ごみの集積場所をもっと縮小するような、というよりも少なくしたいというような話が出てきましたが、今、人口減少で高齢化も進む中、どんどんお年寄りが増えている中、その奥に奥まったお家のお年寄りがごみを出すだけでも大変なのに、それを集積場所を減らすということにはちょっと違和感を感じますし、減らしたからといって、ごみの量が減るわけではないと思うんですね。

そういったこともこれからもっと進めてほしいということと、それと、古着の回収を年2回ほどやっていただいておりますが、東公園の駐車場に持っていける人というのはごく僅かです。車で持っていかないと持っていけない。また、お隣の会津若松になりますけれども、各支所とか、それから社協の事務所とか、いろんな置ける場所、そういうところに古着の集積場所を置いてあって、いつでもそばに来た人が、古着、そういったものをそこに持ち込むことができる。そういうところが出ています。それはすごく便利だということで、ちょっとした1袋でもいいから、行ったときにちょっと置いてこようというようなふうに置ける場所を、古着、そういったものの回収場所を何か所か、というよりも、皆さんが持っていきやすい場所に作るということではできないでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

古着を、イベント回収の会場のみではなくて幾つか拠点を設けてというようなお話ですけれども、そういったことについても生活課の中でもちょっと検討はしております。ただ、そうした場合に、場所をどこにするのか。それで、その場所で集められたものをどう保管しておくのかとか、ちょっと様々課題がありますので、そういったところがクリアできれば、より身近なところで、常時古着などを再利用できるようなシステムが構築できるというふうに考えておりますので、なるべく町民の方々に、日常生活の本当に一部として、より身近に分別収集、資源の再利用に取り組めるような仕組み、環境を整えていきたいと考えておりますので、いろいろご意見を今後も賜ればありがたいと思います。

◎5番（横山智代君）

議長、5番。

◎議長（赤城大地君）

5番、横山智代君。

◎5番（横山智代君）

そういった場所を、だから、できるような体制というよりも、ぜひそれを作るということ的前提にしてやっていただかないと、そういうことは進まないと思うんですね。

例えば役場の、今は寒いですから置いていませんが、玄関前にあります、それも何回も私は申し上げましたが、キエーロの実施もそうです。ただ置くだけ。そしてそこに表示して、写真、写真ではないですよ、書いているだけでは進まないんですよ。ごみのリサイクルにしても減量化にしても、結局、町としては、ごみ処理機の補助だとか、それからコンポストとか、それからキエーロというふうにおっしゃいますが、それに対して、何がどうなっているのか全然分からない。

結局、キエーロも、モニターを募集して、やっていらっしゃる方はそれを確かに実践しているんでしょうけれども、その後それがどうなったのか。そして、キエーロも、前にお話ししましたが、1回、何月何日に何グラムこういうものを入れました。その後、何日たってこうなったら、何グラムになって消えていますよとか、本当に見て分かる、みんなが誰が見ても、ああ、なるほどなと興味を持つような、そういった置き方、表示の仕方というふうに、自分たちができるときにというんじゃなくて、皆さんに勧めたいなら勧めたいなりの考え、そして方策、施策を、方法を考えて、ぜひ広く広めていただかないと、これから私たちがやらなければならない。何をやるのと。ごみを減らすというけど、どうなるのと言っても、それすらも今情報がもう錯綜して、どうしたらごみを

減らすなんていうことよりも、何かごみを減らせてよみたいな、そのぐらいにしか伝わっていないので、その辺を分かりやすく、極端に言えば、だから今の玄関前のキエーロについて、それについては本当に来た人になるほどねと思うような、そういった表示の仕方、お知らせの方法をぜひ考えてほしいと思いますが、いかがでしょう。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

横山議員のご指摘は大変ごもっともだと思っております。キエーロ、生ごみの処理にせよ、古着の回収にせよ、町としては、それを焼却ではなくて再利用できないかということで検討をしているところです。それ以外の品目についても、事業者の方と相談しながら、こういった品目をリサイクルできないかということで、現在協議を進めているものもございます。ただ、まだ構想段階なので、まだ申し上げる段階にはございませんが、それら以外のものについても、近い将来、数年のうちに、分別収集の品目として加えられないかということで、現在協議を重ねているところです。

実施されるのがいつになるかははっきりとは申し上げることはできませんけれども、そういった取組を、表立って皆さんには見える形になってはいないと思いますけれども、そういったことも行っております。

それとあわせて、町民の皆さんに、分別収集であったり、ごみの減量化であったり、CO₂の削減になぜ取り組まなくてはいけないかという動機づけを与えること、それから、そういった雰囲気、あるいは機運を盛り上げていくこと、そういったことが重要だろうと思っておりますので、そういったことに関しましても引き続き注力してまいりたいと考えております。

◎議長（赤城大地君）

これをもって横山智代君の一般質問を終結いたします。

次に、通告により、3番、目黒克博君、登壇願います。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）（登壇）

皆さん、こんにちは。3番、目黒克博です。通告に従い、一般質問を行います。

今日は3月3日、ひな祭りの日です。我が家には4月から幼稚園児になる女の子がいます。この一般質問が終わりましたら、かわいい孫のために祝い事をする予定でございます。

1年は早いもので、年度末の忙しい月に入りました。旧暦では3月のことを弥生と呼ばれて、日本の古来の月名の一つに由来します。これは草木が生い茂る季節を象徴し、春の訪れと新しい命の誕生を祝う意味があるそうです。

また、この3月は卒業式が行われます。児童生徒たちが学び舎を後にする節目の月でもあります。私たちは子供たちの未来の夢を心から応援し、健康で心豊かな子供に育ってほしいと切に願うばかりでございます。

それでは、通告の質問に移ります。

第1に、ごみ減量化とリサイクルの推進について問います。

一つ目、ごみの減量化対策について、各行政区に説明会を実施されました。事業内容の情報発信強化を図りましたが、リサイクル率の向上を含めた事業実施内容について伺います。

二つ目、ごみの減量化は町民の協力を得ることが不可欠であります。どのような周知方法をこれから取っていくのか。また、町民に対しての認識をどれだけ高めてもらうかについて問います。

第2、企業誘致推進、そして雇用促進の事業について伺います。

企業誘致は当町にとって重要な施策と考えております。誘致活動の取組と雇用人材確保の支援について伺います。

第3、町営住宅の管理について伺います。

一番築年数が古くなりました台ノ下の住宅の現在の入居率、そして年齢層、今後の維持管理について伺います。

第4、町産業と観光事業について伺います。

今年の4月1日から6月30日の3か月にわたって県内全域で開催するふくしまデザインেশョンキャンペーンを利用して、坂下町をPR等で活性化できないかということで、当町の考えを伺います。

第5、防災組織の強化について伺います。

近年、災害が多様化、大規模化する中、消防団は従来の消火・救助活動に加え、避難誘導や安否確認等の多様な役割が求められています。将来の消防団員の不足が危惧されることから、当町は様々な運用、見直し等の実施をされているところです。そこで、機能別消防団の導入検討の進捗と各行政区の自主防災組織の設立支援について伺います。

以上、壇上からの質問になります。

◎議長（赤城大地君）

答弁願います。

◎町長（古川庄平君）

議長、町長。

◎議長（赤城大地君）

古川町長。

◎町長（古川庄平君）（登壇）

3番、目黒克博議員のおただしのうち、私からは、ご質問の第4についてお答えいたします。

ふくしまデスティネーションキャンペーンは、JRグループと県内の市町村が一丸となって地域の魅力を国内外にPRする取組であり、本町への観光誘客を図る絶好の機会です。本町といたしましても、プロモーションの中心と位置づけている発酵の魅力や、町の発酵文化を発信する会津坂下町発酵祭の開催や、本町出身の漫画家である高橋ヒロシ先生の作品「クローズ」とコラボレーションしたデザインマンホールスタンプラリーなどの特別企画を予定しており、期間中には様々な取組を通して本町の魅力ある観光資源をPRしてまいります。

また、町単独の取組だけではなく、会津17市町村で構成する極上の会津プロジェクト協議会や、本町と会津美里町、西会津町、柳津町で構成する霊地観光協議会と連携し、広域的な事業展開により、より効果的な誘客活動を展開してまいります。

私たちが当たり前だと思っている食や文化、伝統などは、町外の方々から見れば、そこにしかない貴重な価値を持つ魅力的なものです。来年にはアフターデスティネーションキャンペーンも控えておりますので、本キャンペーンを契機としながら、継続して本町の魅力を積極的に発信し、多くの方が実際に訪れ、また行きたいと思っていただくことはもちろんですが、町民の方にも改めて町の魅力を再認識していただき、自信を持って来町者をお迎えできるよう万全の準備を進めてまいります。

その他のご質問につきましては担当課長に答弁させていただきますので、よろしくお願いいたします。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

私からは、ご質問の第1についてお答えいたします。

初めに、1についてお答えいたします。

ごみ減量化に向けた主な事業といたしましては、無料回収イベントの実施、広報等での啓発、出前講座等を行ってまいりました。また、1月21日より全行政区を対象に地域づくり懇談会を実施しており、そのテーマの一つとして、ごみ減量化について意見交換を行っております。

ごみ減量化は、3月に本格稼働する会津若松地方広域市町村圏整備組合の新ごみ焼却処理施設が、将来の人口減少を想定し、従来の処理能力より小さくなることから、可燃ごみの減量と資源物の適切な分別、特にプラスチック類と古紙類のリサイクル率の向上を目指し、減量化の機運を高めたいと考えております。

次に、2についてお答えいたします。

今回の懇談会で強く感じましたのは、町民の協力を得るには、分かりやすさ、特に視

覚的に分かる、容易に判断できるものの必要性です。資源として出せるものや、どこまできれいにすべきかなどの発言が多く出されました。その判断は個々の主観によるものが大きいので、写真や動画、イラスト等で容易に判断がつくようなガイドブック等の作成のほか、ホームページやLINE等のSNSを活用し、いつでもどこでも閲覧できる方法を充実させ、周知を図ってまいります。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

私からは、ご質問の第2についてお答えいたします。

企業誘致は、町民の働く場を創出し、地域経済を持続可能なものとするために、不可欠な取組であると認識しております。本町の企業誘致の取組といたしましては、未活用地や空き工場を企業誘致を進める上で極めて有効な地域資源と位置づけ、企業進出に関する照会があった場合には、随時該当物件の情報を提供し、交渉を実施しており、現在は既存企業からの紹介等により、宿泊業を中心に交渉を進めているところであります。

また、福島県主催の企業誘致セミナーや会津産業ネットワークフォーラムに参加し、広域連携での企業誘致活動を展開しております。

今後も多様な企業に対する幅広い誘致活動を展開し、企業誘致の実現に努めてまいります。

次に、町内企業における雇用確保支援といたしましては、これまで地元の高校生等に対する合同企業説明会や企業見学会等を実施してまいりました。しかし、近年の急速な少子化の進行や進学率の上昇等により、地元企業への就職希望者が減少しており、多くの企業で地元からの新規採用のみでは必要な人員を確保できない状況となっております。このことから、合同企業説明会や企業見学会の対象者を、新卒者だけでなく、即戦力となり得る経験者にも拡大し、実施しております。

また、将来に向けた人材確保のため、より早い段階から地域経済に関心を持つ機会が必要であると考え、今年度より小学校向けの企業紹介を開始いたしました。児童向けのアンケート結果からは、子供ならではの感性で、その職業の魅力を肌で感じているということがうかがえました。来年度以降は高校1、2年生向けの企業紹介も実施する計画でございます。

さらに、今年度より雇用促進事業と移住・定住支援を一体的に実施し、移住希望者に対し町内企業を紹介する取組を開始したところであり、移住希望者の多くは、都会にはない、その地域ならではの働き方に価値観を見いだそうとしており、やりたい仕事が見つかる町であることが選ばれる町になることの条件であると感じております。これを実現するためには、幅広い職種や多様な働き方を備えることが重要であることから、新規企業の誘致活動とともに、商工会や地域金融機関と連携し、既存企業における生産性向

上や新規事業参入、多様な働き方に対応する就労環境改善への支援等についても取り組んでまいります。優良企業が地域に増えることで地域のブランド力向上につながり、多くの人から選ばれる町になることで、結果として、既存企業も含め、地域全体としての人材確保につながっていくと考えております。

◎建設課長（古川一夫君）

議長、建設課長。

◎議長（赤城大地君）

古川建設課長。

◎建設課長（古川一夫君）

私からは、ご質問の第3についてお答えいたします。

町営住宅の管理につきましては、平成21年3月に国が策定した公営住宅長寿命化計画策定指針に基づき、平成24年3月に会津坂下町町営住宅長寿命化計画を策定し、各団地の維持管理計画に沿って町営住宅の長寿命化を図ってきたところであります。

議員おたしの台ノ下団地につきましては、現在の管理戸数100戸のうち、政策空き家が47戸、入居中が53戸で、入居率が53%となっております。年齢層につきましては、平均で66歳でありまして、70歳以上のみの世帯が29戸、60歳以上のみの世帯が5戸となっております。

今後の維持管理につきましては、令和5年2月に改定された会津坂下町町営住宅長寿命化計画の中で、建設後56年以上経過した台ノ下団地については用途廃止をする計画となっておりますので、用途廃止までの間は適切な維持管理に努めてまいります。また、新規入居の募集は行っておりませんので、現在入居されている方々の退去を待って、順次、建物解体後に更地を民間へ譲渡、または中岩田団地同様に建物つきで民間への譲渡を進めてまいります。

◎総務課長（佐藤秀一君）

議長、総務課長。

◎議長（赤城大地君）

佐藤総務課長。

◎総務課長（佐藤秀一君）

私からは、ご質問の第5についてお答えをいたします。

消防団を取り巻く環境は、若年層の加入者の減少、団員の高齢化、さらには働き方の多様化により大きく変化をしてきており、従来どおりの活動や団員数を維持することが年々困難となっている状況にあります。町の消防団員数は定数500人に対し実員425人であり、毎年減少傾向にあることは地域防災力の低下につながることから、大きな課題であると認識をしております。

令和6年度に消防団員に実際に感じている課題を把握するためアンケートを実施し、その結果を基に消防団員の負担軽減策として事業の見直しを実施しており、令和7年度

は中継送水訓練時期の変更、春の夜警期間短縮、春季検閲時期の前倒し、夜警期間の巡視やパレードを廃止いたしました。今後も団員の負担軽減を図りながらも、消防団員として必要な知識や技術の習得に努めてまいります。

機能別消防団員の導入については、現在の消防団の状況では対応が難しくなりつつある消防団活動を補完できる有効な仕組みであると考えております。本町においても、団員減少や時間帯による実働力の偏りを補うため、機能別消防団員の導入に向け制度設計の精査を進めております。具体的には、待遇や出動範囲の調整、年齢制限などの調整を行っているところであります。制度の骨子が固まり次第、条例改正を提案させていただき、消防団OBなどへの声かけにより機能別消防団員としての加入を進めてまいります。

また、自主防災組織は、自分たちの地域は自分たちで守るという防災意識と強い連帯感を持って、地域皆さん自ら防災活動を行うために立ち上げる組織であります。大規模災害が発生すると、個人や家族の力だけでは対応できずに、危険や困難を伴う場合があると想定をされます。被害の拡大を防ぐためには、自分の身は自分で守る自助とともに、ふだんから顔を合わせている地域の近隣の人々が集まって互いに協力し合う共助の力により、総合的な地域防災力を高めることで被害の軽減を図ることが大切であると考えております。

町では毎年、自主防災組織の設立を促すため、7地区持ち回りで開催している防災訓練や中央公民館で開催しているばんげ大学で、町防災士連絡協議会による講演会を実施し、自助、共助の必要性を周知しております。自主防災組織の設立に当たっては、各種計画の作成支援や資機材を購入する際の助成金の案内、さらには設立後の活動について支援をしております。

◎議長（赤城大地君）

休憩のため休議といたします。

（午前11時10分）

再開は11時20分といたします。

（休議）

◎議長（赤城大地君）

再開いたします。

（午前11時20分）

再質問があればお願いいたします。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

ごみ減量化とリサイクルの推進について質問いたします。

答弁にもありました、先日、1月から、各行政区において町のごみ減量化に向けての

説明会が行われました。豪雨に対する坂下町町民の皆様の意識は高いと私は思っております。また、ごみ分別、そしてそのリサイクルについても、他市町村と比較してもかなり優秀と見てもよいと私は思っております。

その減量化という背景には、答弁にもありましたが、環境センターでの焼却処理、3月から新たな焼却、規模の縮小というのが背景にあります。また、当町のごみの排出の受入量は総量基準を超過しているとも聞いております。若干。

そこで、減らしてくださいという要望に対してでございますが、ここ数年の坂下町の家から出るごみの量はどのくらいの数値なのか。そして、そのリサイクル率の現状について説明願います。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

過去3か年の家庭系ごみの量で見ますと、令和4年度が3,697トンほどであったものが、令和5年度には3,366トンくらいまで減りまして、令和6年度にはさらに減って3,235トンと、年々減ってきております。ただ、これはもちろん町民の皆さんの分別であったり、そういった取組によるところも大きいんですが、それよりも一番大きな要因としましては、人口の減少、それによってごみの減量が結果として進んでいるというふうに捉えているところでございます。

それと、あわせてごみのリサイクル率なんですけれども、これは重量比で算出したものですが、令和4年度は大体18%ほどだったのが、令和5年度には17%、そして令和6年度には16%と、年々少しずつ減ってきております。これも、リサイクルがされなくなってきているということではなくて、町内のスーパーマーケットであったり廃棄物処理の事業者で、それぞれ分別回収のボックスを常設している。それを利用している町民の方が増えていることによって、町の分別収集に出さずに、そちらのほうにペットボトルとか段ボールとかそういったものを持ち込んでいることによって、リサイクル率が少しずつ下がってきているものと捉えております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

答弁のお話、今、説明を聞きますと、やはり人口減少が一つの原因でもあるかというふうに感じているところでございます。素直に考えれば、ごみの資源化、分別を徹底し排出することで、ごみは自然的に削減ができる。資源物のリサイクル率が上がるのは当

然だというふうに考えます。しかし、その分別の方法が、やはり皆さんの周知、住民の方に周知はされていないのかなというふうには感じているところでございますが、私たちは本当にそう簡単にごみの減量について減らせるということは、なかなか私も自信がありませんし、努力目標としてどのような対応をすればよろしいのか、町民の方に。それに対してどのくらい減らせるのかということで、ちょっとお尋ねします。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

今年1月から行ってまいりました懇談会の中では、1人1日当たり、おにぎり一つくらいのごみを減らしてもらいたいということで説明はしてまいりました。そう言われても、何を減らすのかというところが一番大事なところだと思うんですが、私が出席した懇談会の中で出されたものとしては、例えば納豆のパックはどうしたらいいのかとか、あと窓空きの封筒はどうしたらいいのかとか、本当に具体的な話を承ってまいりました、たくさん。例えばその中で、納豆のパックはそのまま直接洗ったりするとぬるぬるするけれども、ちょっと水につけておくと、10分ぐらいつけておくと、プラで出せますよとか、そういった話もいろいろとありました。また、不燃物であれば、瓶、ちょっと汚れちゃっている瓶はどの程度まできれいにしたらいいのか。色がちょっとついたような瓶もあるんだけれども、こういったものは資源として出せるのか、不燃物として出すしかないのかとか、そういった本当に細かなお話、具体的なお話を承ってまいりましたので、それに対応すべく、こちらのほうでも、より具体的な分別の仕方をお知らせすることによって、資源化、ごみの減量を進めてまいりたいと考えております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

ありがとうございます。そうすると、この記載の中には、町全体で460トンの削減が必要であるというふうに謳っております。最終的には町民一人一人の認識、減少に対する認識が必要なのかなというふうには感じているところでございます。

そして、やはり先ほど同僚議員からお話がありました質問に重複することだと思いますが、企業側の努力もまして必要なのかなと。過剰包装もかなり多く出回っております。それに対しての処理、対応も、やっぱり企業側の努力も必要なのかなということで感じているところでございます。

次の質問になりますが、町から町民に配布しているごみカレンダーがございます。そ

の中にごみの分別表が描かれております。我が家では冷蔵庫の扉に貼っております。嫌でも毎日見てしまいます。提案型の質問という形になってしまうかもしれませんが、毎日見ている中で感じたことがありますて、カレンダーと分別が上下にわたって記載しております。これからごみの分別でかなり重点的に行うのであれば、ごみの分別の方法を中央部に記載してほしい。カレンダーは周りでいいじゃないですかというふうな発想が私の中には芽生えました。そろそろ更新時期なのかなというふうに考えていたところでございますので、それに対してどう考えますか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

貴重なご提案を大変ありがとうございます。来年度分のごみカレンダーはもう既に発注済みですので、来年度分については今のご提案を反映させることはできないんですが、9年度以降の分について、今のアイデアも参考とさせていただきながら、より見やすく、ごみ分別に取り組みやすいようなカレンダーを作成してまいりたいと考えております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

ぜひともよろしくお願いしたいところでございます。

次の質問に入ります。生ごみ対策、処理について伺いたいと思います。私からは、コンポストについてちょっと深掘りさせていただきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

この処理方法としては生ごみの発酵促進剤が必要だと思います。コンポストは安価なものから様々あるようです。当町もコンポスト購入費用に対して一部補助金制度が存在していますが、この一部補助についての説明をお願いしますか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

町では、コンポスト容器、あるいはキューロ、それから家庭内での電動生ごみ処理容器とか、そういったものについて補助を出しております。コンポスト容器、屋外に据え

付けるものについては、1容器までで限度額が4,500円、購入額の2分の1なんですけれども、限度額が4,500円。それから、キエーロにつきましては、2基までで、材料費も込めて、購入費の2分の1で、限度額が5,000円。電動式の生ごみ処理機は、これも購入費の2分の1で、限度額が1万8,000円としております。

参考までに、今年度の実績を見ますと、8月までは僅か5件しか申請がなかったんですが、それ以降、熊騒動以降、特に生ごみ処理機、電動式の生ごみ処理機が増えてきてまして、今現在、コンポスト容器全体で25件申請が出ているんですが、そのうちの半分以上の13件を電動式の生ごみ処理機が占めているという状況になっています。これは熊対策で、屋外のコンポスト容器をちょっと利用しづらくなってきたというものが背景にあって、家庭の中で、ちょっと高価ではあるんですけども、電動式の生ごみ処理機を使ってごみ減量に取り組もうとしている町民の方が増えてきているというふうに捉えております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

先日までは当町の玄関先にコンポストが置かれておりました。様々な理由で、熊対策ということもありまして、そうじゃないのかなというふうには感じていたところですが、これ、近隣市町村も同様に生ごみ処理機の補助金の一部が行われております。私も各市町村の補助金のリストをいろいろ調べてみたところ、大体似たり寄ったりだということで理解しております。

ただ、1点、会津若松市のことでございますが、補助金の内容を一部プラスされておるんですけども、子育て世帯に対しての補助金、要するに子育ての方に関しては、その分も中に入れていると。補助金の一部に入れていると。これは3分の2だそうです。それは上限2万4,000円までだそうです。これもやはりこれからの子育ての支援のほうにも関係してくるのかなということで、会津坂下町もそのような施策もやっぱりこれから必要でないのかなというふうに考えるところでございます。

女性の意見をもっともっと聞いていただきたいなというふうに思うところでございますが、本町は今後、その辺も考えてもらえるのでしょうか。どうでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

今、議員からご提示のあった会津若松市の取組、坂下町ではそういった取組は行って

おりませんけれども、そういった角度での考え方というのも当然あるかと思います。様々な角度から、こういった制度設計がより望まれるのかを研究してまいりたいと考えております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

ぜひともお願いしたいなというふうに考えております。

そして、町の減量化に向けた説明会についてちょっとお話ししたいと思います。先日、意見交換という形で様々な住民の方のお話をまとめていただいたと思うんですが、できればそれを収集していただいて、文書で皆さんに配布するのも一つの減量化の一つの方法かなというふうに思いますが、これに関して希望しますけども、今後お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

これまでの懇談会を通して、様々な質問や意見を頂戴しております。それを今まとめる作業を行っておりますので、まとまりましたら、皆さんに見ていただけるような方法を考えてまいりたいと考えております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

皆さんの声が一番力強い、何というか、ごみ減量に一番力強い話かなというふうに私は感じておりますので、ぜひとも配布をお願いしたいと思います。

そして、町として減量化、リサイクルに本当に取り組んでいるんだよということで、形としても、町の敷内、リサイクルの箱でも用意していただければというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

そういったものを設置する場所とか、そういったものもちよっと検討しなくてはけませんし、こういった品目にするかというのも検討しなくてはいけないので、そういったことが可能かどうか、そういったことも含めて、対応が取れるかということはちよっと研究したいと思います。また、4月以降は、蛍光灯とか、あとはリチウム蓄電池とか、そういったものの拠点回収を、役場庁舎のみならず各地区のコミュニティセンターでも行ってまいります。そういったものの品目を増やしていけるかということも含めて研究してまいりたいと思っております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

よろしくお願ひしたいところでございます。

まず、今、住民の方々の声があったんですけども、モバイルバッテリーの処分の方法についてちょっとお尋ねします。基本的にはリサイクルマークがついているモバイルバッテリーの回収はしますよという話を聞いたんですが、その、リサイクルのできないバッテリーに対しての処分方法をちょっと教えていただきたいと思います。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

リサイクルできるものにつきましては、まとめて、これを広域全体でまとめて、処理できる業者のほうに持って行って、処分をするというようなこととしております。リサイクルできないものについては、今の技術では再利用というかりサイクルできませんので、それについてはもう埋立処分をするしかない。そういった状況でございますので、あと、それが、そういった技術が確立すれば、また別な収集方法も出てくるかと思うんですけども、そういったものについては受け入れることができないので、販売店に相談していただくとか、そういった対応を住民の皆さんにお願いしているというような状況でございます。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

このモバイルバッテリーは、かなり多くの、全国的に発火している事例が数多くありますので、その辺、気がかりなのかなというふうに考えておりますので、私、ある業者に聞いたら、量販店に持っていったらどうだとか、あとは不用品回収業者も受け入れているよと言うんですけど、なかなか受け入れてくれないのが現状だそうです。この辺もやはり考えていかなきゃいけない問題なのかなというふうに思っております。

それでは、このごみ減量に関しては終わりたいと思います。

次に、企業誘致の促進、雇用促進の事業について質問いたします。町として、答弁にもありましたが、当町に進出したい、要するに中小企業もしくは大企業を含めてですけども、この町に呼び込むために、現在、町として進出を希望したい企業はあるのか。そして、新規に設立したい企業はあるのか。そして、今、町が目標としている企業の候補先があるのかについて質問いたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

お答えいたします。

現在、交渉を行っているというか、具体的にまだ、交渉というか、相談を受けているというところについては何点かございます。製造業、それから宿泊業ということで、何件か今相談を受けている状態でございます。具体的にまだ誘致、進出までには至っていないということですが、町としての考えにつきましては、やはりそういった一件一件、進出をご相談されてくる企業様に丁寧に対応しながら、未活用地、空いている土地ですね。それと空き工場、これを今、掘り起こしも加えながら、素材として掘り起こしをしておりますので、そういったものを活用して誘致を進めていきたいというのが町の考え方でございます。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

やはり商工業の復興、そして人口減少の対策の一つとして考えられますので、かなり大事な施策かなというふうに考えております。この例えば工業用地の確保に関しては、企業の業種及び状況によって様々異なると思います。民有地も含めて、例えばこういう

土地が欲しいとか、ああいう土地が欲しいとかいうリストというのは、今現在、作ってありますか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

今ほども申し上げたんですけれども、リスト化はしていないんですけれども、職員の頭の中というか、職場の中で、こことこことこはご紹介できるよねというようなところは現在持っているというところでございます。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

企業誘致のための補助金制度に対して、私も勉強しなきゃいけないところなんですけれども、どんな補助金があるのか、ちょっと教えていただけますか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

現在ご用意させていただいている制度につきましては、企業立地奨励金、これが、進出される企業さん、これは町内の既存の企業さんにも適用される事業でございますが、今ご用意させていただいているのは、これが唯一というような形になります。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

ある社長からいろんな質問があって、私も回答に困ったところもあったんですけども、法人税の減免とか固定資産の減免とかいろいろあるかと思えますし、雇用の奨励金ですか、それも含めて、出てきますよということの話も逆にいただいたということもあったんですけども、取りあえず様々な、企業誘致に関しては今後よろしくお願ひしたいなと。

町商工、工業の復興に向けて、この取組をぜひお願い、進めていってほしいなというふうに思っています。

以上、この質問は終わります。

あと、3番、町営住宅の管理について質問いたします。

私がちょっと参考としていろいろ調べさせてもらったところがあるんですけども、一番この古いところは台ノ下の団地だということで、昭和40年頃に造られたということで、次に古いところは中村ですね。これは昭和44年に建てられたということでございます。

答弁にもいただいたように、あと何年でしたか、築後56年以降はこれ以上の管理はしないということに答弁いただいたんですが、一番、住んでいる方の利便性、今現在住んでいる方の利便性の係数なんていうことで、ちょっと調べてみたんですけども、利便性ですね。これはやっぱり中村団地が一番悪い。その次に台ノ下だということがちょっと私的に調べさせてもらったんですけども、後々集約しての入居ということになるかと思うんですが、やはり年齢層が高いということもありまして、それに対してのその方々のやっぱり不便性がかなり来ているということが現状だというふうに思っております。

その中に、日常生活用品の買い出しがかなり厳しいんだという声も聞いたこともあります。そういうことで、集約ということが一番利便性が高いのかなというふうに考えておるところなんですけど、受益者の利便性と安全性の確保について、とにかくリスクがこれから伴ってくるのかなというふうに感じております。なもので、答弁にいただいた中で、これでこの質問は終わりたいと思います。ありがとうございます。

次の質問に入ります。町産業と観光事業について質問いたします。

このふくしまデスティネーションキャンペーンについては、先日、町長施政方針の中でも説明がありました。高橋ヒロシ先生の「クローズ」及び発酵を利用した坂下の合い言葉で盛り上げていくということで答弁がありましたが、これはもっと盛り上げる材料がいっぱいあると思うんですけど、町長、質問をよろしいですか。アピールする材料はもうたくさん、坂下町にはいっぱいあります。何かもっとありませんか。

◎町長（古川庄平君）

議長、町長。

◎議長（赤城大地君）

古川町長。

◎町長（古川庄平君）

先ほど答弁しましたとおり、このデスティネーションキャンペーンに向けては、特出しして、こういうことでやっていくというような答弁をさせていただいたんですが、もっとありませんかと言われると、坂下には本当に数限りなくいっぱいあっかと思っております。皆さんご存じのように、当然、神社仏閣もそうでありますし、また、広瀬の埋蔵文化財センターにも馬の埴輪があるというようなこともあって、馬文化の発祥が分かるんじゃないのかなと。そういったことを掘り下げていけば、いっぱい本当にあるにはあります。

しかしながら、ただいっぱいあるというPRをして、何でもかんでもありますよ、ありますよだけでは、本当にPRとして有効なのかと考えたときには、やっぱりメインとなる特出しものをもって来てもらえれば、こういうものもありますよ、ああいうものがありますよという紹介をしていくということが大切だろうというふうには思っております。

実は先月、県のこのデスティネーションキャンペーンに関しての観光何とかって、名前はちょっと忘れたんですが、会議がありまして、会津のほうから、極上の会津協議会から、若松の市長の代理として私が出席させていただいたんですが、そこで知事から特に指名を受けて、町村を代表して、坂下の町長、何か一言なんて言われたんで申し上げたんですが、坂下のことを話をさせていただきました。坂下は特にこの発酵祭を今年度やったんですが、このデスティネーションキャンペーンに向けても、再度もうちょっと規模が大きくしたいとは思っているんですが、そんな確度の中で発酵祭を実施しますというようなことも話をしてまいりました。できれば、4月14日、知事が坂下に来町するという予定になっているんで、この発酵に関したことでちょっと見てもらってもいいのかなと、こんな思いもしているんですが、なかなか日程とその段取りがつかなければ何ともしようがないんですが、坂下にはとにかくいっぱいあるということで、代表的なものをPRしながら、来たらばいろいろ案内していくということが、我々が今できることかなと、こんなふうに思っております。

◎3番（目黒克博君）

議長、3番。

◎議長（赤城大地君）

3番、目黒克博君。

◎3番（目黒克博君）

ちょっと時間も迫ってきましたので、このデスティネーションキャンペーン終了後も、町長を先頭に旗振りをしていただいて、坂下町のいいところを紹介していただいき、坂下に来てよかったと実感できる町のPRをお願いしたいと思います。

これで質問を終わります。

◎議長（赤城大地君）

これをもって目黒克博君の一般質問を終結いたします。

次に、通告により、4番、物江政博君、登壇願います。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）（登壇）

4番、物江政博でございます。通告に従い、一般質問させていただきます。

第1に、当町の祭事について伺います。

当町では1月に大俵引き、7月には御田植祭、8月に流し踊り、9月には秋まつりと四つの大きな町を挙げてのイベントが行われています。祭りは、この地において歴史のあるものと、まだ浅いものと、様々ではございますが、参加している方々と祭りを見に来た人たち、特に町内の子供たちにとっては楽しい行事であります。

大俵引きは、私が改めて言うこともなく、引き子として参加される方は、地元だけではなく日本各地から参加していただいておりますが、最近はその参加が年々減少しているのではないのでしょうか。8月の流し踊りにおいても参加団体が少なくなり、盛り上がりがいま一つ足りないような気がします。流し踊りの坂下音頭では少し前まで小学校の運動会で行われていましたが、最近は見ることがなくなりました。2万人の流し踊りと言われた頃は、小学生から、企業、団体が踊りに参加した住民は皆踊れたはずですが、小学生時代に習わなかった方にとっては結構難しい踊りだと思います。

そして、それぞれの催事の時期には、各町内、そして各種任意団体の方々が出店を出されて、祭りを盛り上げてくれています。御田植祭では、当町の伝統的な早乙女踊りが披露されています。一時、その後継者も途切れそうになりましたが、今では会津農林高校の生徒さんたちの若い力に託され、学業に励みながら町の文化を継承してくれています。

また、各催事のときには町民の安全のために交通規制が行われています。十分に考慮されているとは思いますが、幹線道路から町営駐車場までの案内や、町営駐車場の駐車台数にも限られていますので、仕方なく民間企業の駐車場を利用している方もおいでではないのでしょうか。

どの祭りでも実行委員会が立ち上げられ、委員の方々の意見で事が進められると思いますが、行政の立場から答弁をお願いいたします。

1、大俵引きに関して。

- (1) 参加人数を増やすための策はあるか。
- (2) 祭りを見に来られるよう、交通機関の対策はあるか。
- (3) 同時に行われている初市の開催時間の延長は考えられるか。

2、流し踊りに関して。

- (1) コロナ禍以来、参加団体が減少したことにどう対処しているか。
- (2) 現在、小学校において坂下音頭を教えないことに対してどう思うか。
- (3) 坂下音頭に代わる踊りの発想はないか。

3、秋まつりに関して。

- (1) 現庁舎解体後、秋まつりの大看板の仮装行列をどこで行うつもりか。

4、御田植祭に関して。

- (1) 会津農林高校の生徒さんの早乙女踊りを当町としてどう支援していくのか。

次に、第2として、旧坂下高校跡地の利用を伺います。

以前にも何度か質問しましたが、旧坂下高校はこれからどうなるのでしょうか。県の予算で全て取壊しされずに済むのか。町の税金を投入して再活用するのか。なかなか判

断が困難だとは思いますが、私は再利用の提案をいたします。スポーツを趣味にしている町民や、これから上達しようとしている生徒、学生たちにとって、体育館並びに武道場は、この種の施設が少ない当町にとって重要な施設だと私は思いますので、体育館及び武道場を残すことは可能かを伺います。

また、当町には、歌手の春日八郎氏をはじめとして、坂下町ゆかりの著名人が何人かおられます。春日八郎氏については坂下駅前に銅像が置かれ、若宮地区に記念館が置かれています。そのほかにも当町には、猪俣公章氏、高橋ヒロシ氏の功績や活動、その成果を知るものが、文献的には目にすることがあっても、その方々の功績や具体的な事柄を知ることができる施設になり、場所はないに等しいと感じます。そこで、旧坂下高校を活用して、著名人の記念館として残すことができないかを伺います。

1、体育館・武道場は運動施設として利用することはできないか。

2、町由来の著名人の記念館として利用できないか。

以上、壇上よりの質問といたします。

◎議長（赤城大地君）

昼食のため休議といたします。

（午前11時58分）

再開は午後1時といたします。

（休議）

◎議長（赤城大地君）

再開いたします。

（午後1時00分）

答弁願います。

◎町長（古川庄平君）

議長、町長。

◎議長（赤城大地君）

古川町長。

◎町長（古川庄平君）（登壇）

4番、物江政博議員のおただしのうち、私からは、ご質問の第1の総論についてお答えいたします。

議員ご承知のとおり、町には、坂下初市、御田植祭、ばんげ夏のよいち、坂下秋まつりの4大祭りが開催されております。どの祭りも歴史と伝統、由緒ある大切な祭りであります。また、近年では、坂下東公園から鶴沼川河川敷に連なる桜並木を楽しむばんげ桜まつりも開催しており、四季折々に楽しむことができる祭りの町でもあります。

祭りにおいては、少子高齢化や人口減少の影響により担い手不足が課題となっておりますが、魅力的な催事があるということは、町なかのにぎわいの創出や、交流人口、関係人口の拡大など、町の活性化に直結する重要なものであると認識しております。中でも、初市、御田植祭、秋まつりは、昔から開催されている伝統的な神事であり、町も観

光資源として活用させていただいております。少子化や高齢化などによる人口減少に伴い、これまでと同様の規模等で実施するには担い手が不足しているという課題も出てきており、今後も祭事を継続して開催していくためには、伝統を守りつつも時代に合った内容や運営方法に変化させていくことも必要になっていると実感しております。今後も祭りの中心を担っていただいている町民の皆様や団体と協議しながら、持続可能な祭りの開催方法を模索してまいります。

その他のご質問につきましては担当課長より答弁させていただきますので、よろしくお願いいたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

私からは、ご質問の第1の1から4についてお答えいたします。

初めに、1の（1）についてお答えいたします。

大俵引きの引き子を増やす取組といたしましては、ポスターの掲載による周知はもちろんのこと、チラシの全戸配布、SNSやホームページを活用した情報発信、報道機関への表敬訪問や、前回参加者へのダイレクトメールなどによる募集広報に力を入れております。さらに、本年は初市の開催に合わせ、町の観光資源であるそば打ち体験や、会津若松市出身の落語家である三遊亭兼好師匠の独演会などを組み合わせた旅行企画「極上のばんげ旅」を実施し、町外からの参加を促す取組を新たに展開したところでございます。今後も、町ホームページやSNSなど様々なツールを活用した情報発信を積極的に行いながら、参加人数の増加につなげてまいります。

次に、（2）についてお答えいたします。

坂下初市開催時の来場者に対する駐車場につきましては、旧営林署跡地、町営駐車場、中央公民館及び健康管理センター駐車場の開放に加え、JA会津よつば様の駐車場をお借りし、来場者に対し案内をしております。また、駐車場には誘導員、交通規制区間には警備員を配置し、来場者のスムーズな駐車を図るとともに来場者の安全確保を行っております。それでも混雑する場合がございますので、今後は民間企業等の敷地もお借りするなど、可能な限り駐車場を確保していくとともに、バスなどの公共交通機関を利用して来場いただけるよう、運行時間等の周知を強化し、来場者が安全・安心に祭りを楽しめるよう努めてまいります。

次に、（3）についてお答えいたします。

本年の坂下初市の開催時間につきましては、平日開催であることや、昨年、関係団体からいただいたご意見を反映させ、お勤めの方も仕事が終わった後にお立ち寄りいただけるよう、1時間延長して開催いたしました。今後もより多くの方に来場していただくため、開催時間の延長につきましては、関係団体などからのご意見をお聞きし、実行委

員会と協議しながら柔軟な対応に努めてまいります。

次に、2の（1）についてお答えいたします。

コロナ禍以降、祭りやイベント等の規制が緩和されたことで、来場者数も徐々に増加し、にぎわいも回復してきたと感じております。しかし、流し踊りの参加団体数は、コロナ禍以前と比較して、町内企業からの参加は増加している一方で、スポーツ少年団や小学校の学年行事として参加する子供たちの団体数は2023年の復活開催以降も回復せず、年々減少傾向にあります。参加団体数減少への対応といたしましては、コロナ禍以降、参加団体の申込み下限人数を緩和することで、より多くの団体に参加していただけるよう取り組んでおります。

今後も少子高齢化や人口減少の影響により、参加団体数は減少していくことが想定されますが、多くの方に参加していただけるよう、町内企業や団体等へ積極的な参加を呼びかけるとともに、参加人数が減少しても持続可能な開催内容、方法を引き続き模索してまいります。

次に、（2）についてお答えいたします。

坂下音頭につきましては、令和元年度まで小学校の運動会の中で全校児童による坂下音頭を実施しておりましたが、新型コロナウイルス拡大の影響で運動会を中止、縮小して以降、保護者の要望や暑さ対策として、種目を厳選した午前中のみで開催としたことから、坂下音頭は実施しておりません。しかし、坂下南小学校においては、地域講師を招いて坂下音頭の指導を受け、学習発表会で発表する取組が実施されているほか、幼稚園においても、保護者会の取組として、夏祭り、流し踊りへの参加や、地域講師を招いた太鼓指導などで坂下音頭に親しむ機会が設けられております。坂下音頭は地域の中で受け継いでいく大切な文化であると認識しておりますが、郷土の理解と愛着の醸成の観点からも、教育課程の可能な範囲の中で継承に向けた取組を進めてまいります。

次に、（3）についてお答えいたします。

ばんげ夏のよいちにおける坂下音頭、流し踊りは、夏祭りの名物行事として多くの方に親しまれております。坂下音頭は本町固有のものであり、後世に継承していきたい文化であると考えており、現在、坂下音頭に代わる踊りは考えておりません。

次に、3の（1）についてお答えいたします。

坂下秋まつりの仮装山車の巡行、コンクールにつきましては、みこし渡御や稚児行列などの神事を執り行う諏訪神社の例大祭に合わせ実施しており、中心市街地の活性化やにぎわいの創出につながる大変重要な存在でもあることから、庁舎移転後も歴史と伝統のある現在の場所を拠点として開催してまいります。

次に、4についてお答えいたします。

会津農林高等学校の早乙女踊り保存クラブにつきましては、御田植祭において栗村稻荷神社に早乙女踊りを奉納するほか、町内各所においても披露しております。町の伝統文化を高校生が中心となって継承していただいていることは、町といたしましても大変うれしく、たたえるべき取組であると認識しております。早乙女踊り保存クラブに対しましては、早乙女踊りに使用する笛や扇などの備品購入など、情報交換を行いながら活

動継続に必要な支援を行っております。

今後も町の貴重な伝統文化を絶やすことなく継承していくため、活動内容や抱えている課題等を丁寧に聞き取りしながら、必要な最大限の支援を行ってまいります。

◎政策財務課長（長谷川裕一君）

議長、政策財務課長。

◎議長（赤城大地君）

長谷川政策財務課長。

◎政策財務課長（長谷川裕一君）

私からは、ご質問の第2についてお答えいたします。

初めに、1についてお答えします。

旧坂下高校跡地の利活用につきましては、取得の是非を含め、財政負担、公共施設適正化方針、将来的な維持管理コストなどを総合的に勘案しながら慎重に検討を進めているところであります。体育館及び武道場につきましては耐震工事が実施されており、建物構造としては比較的堅牢であることから、運動施設として一定の活用可能性はあるものと認識しております。

しかしながら、体育館は昭和34年、武道場は昭和46年に建設された建物であり、老朽化が進んでおります。トイレの洋式化、照明設備のLED化、消防設備の改修など、初期改修費に加え、光熱水費、保険料、法定点検費用等の恒常的な維持管理費が継続的に必要となります。また、既存の社会体育施設の利用状況や稼働率も踏まえる必要があり、施設が不足している可能性があるという理由のみで新たに保有施設を増やすことは、将来的な財政負担の固定化につながる懸念もございます。

そのため、改修費の概算、年間維持管理費の試算、利用見込み人数や稼働率の推計を整理した上で、費用対効果を客観的に検証する必要があると考えております。現時点では、残すことが困難であるという状況ではございませんが、公共施設総量の適正化方針、新庁舎建設や地域振興施設といった大規模事業との整合、人口減少の見通し、自立可能な財政運営との均衡を踏まえ、次年度をめどに判断してまいります。

次に、2についてお答えいたします。

本町には春日八郎氏、猪俣公章氏、高橋ヒロシ氏をはじめ、全国的に功績を残された方々がおられ、町の貴重な財産であると認識しております。春日八郎氏につきましては既に銅像や記念館が整備されておりますが、その他の方々については、体系的に功績を紹介する常設展示については必ずしも十分とは言えない状況でございます。一方で、記念館を設置する場合には、展示資料の確保及び著作権・肖像権の整理、展示企画・更新、運営体制の確立、来館見込みの精査、継続的な管理運営費の確保など多くの課題が伴います。単独施設として常設化することの妥当性については、費用対効果や観光振興への波及効果を慎重に検証する必要があるとございます。

旧坂下高校校舎を大規模改修し記念館とする案につきましては、県補助制度の活用可能性はあるものの、建物規模や老朽化の状況を踏まえると、相当の財政負担を伴うこと

が想定され、現時点では利用を図ることは容易ではないと考えております。検証の在り方につきましては、中央公民館など既存施設での企画展示、デジタルアーカイブ化、期間限定特別展の開催、さらには今後整備予定の新庁舎や地域振興施設との複合的な活用など、より持続可能で柔軟な手法も含めて、関係者の皆様方との話し合いを継続してまいりたいと考えております。

◎議長（赤城大地君）

再質問があればお願いいたします。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

俵引きについて、まず伺います。去年って、今年か。今年の俵引きの人数は何人だったんでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

申込みをいただいた人数については80名でございます。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

その80名という数字は、やる側からすれば、多かったのか、少なかったのか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

コロナ禍以前の数字なんかも参考にさせていただきましたが、コロナ禍も継続して開催していた時期を除くと、これまで、平成30年からの統計ですけれども、一番少ない人数になっております。

◎ 4 番（物江政博君）

議長、4 番。

◎議長（赤城大地君）

4 番、物江政博君。

◎ 4 番（物江政博君）

じゃあ、その少ないということを分かっていますから、今後の対応とすれば、ただSNSの発信とか情報発信だけでは人が集まらないと思うんですけど、どうでしょう。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

議員おただしのとおりだというふうに私も思います。最近の申込者の傾向を見ますと、団体で参加されているところもありますので、正確に町内、町外という分け方で何割かということはなかなか出せないんですが、大体7割くらいが町外、3割くらいが町内というような見通し、想定ができるかなというふうに考えております。

この町内の方々の参加というのがやはり年々減ってきているというふうに人数的な推計の中에서도見えてきておりますので、町内の方々にいかに参加していただくかというのが、これからの人数を増やしていく方向性の一つかなというふうには思っております。

ただ、どういった方法でという部分については、現在、町としても考えている部分はございませんが、ほかの祭りにしてもそうですが、実行委員会というものが認識されておりますので、その中に町も入った中で、一緒になって具体的な増加に向けた取組というものを検討していく必要があるというふうには考えております。

◎ 4 番（物江政博君）

議長、4 番。

◎議長（赤城大地君）

4 番、物江政博君。

◎ 4 番（物江政博君）

私も昔、商工会青年部、商工会かな、入ったときに、やはり、もう30年ぐらい前になるんですけども、やっぱりもう危機的な状態、80人もいなかったんじゃないか、参加している人数が。そのときに、何とかしようということで、商工会の、隣接町村の商工会、只見沿線沿いに10か所ありますから、只見まで行けば。各商工会から、とにかく頭を下げて、5人だけでもいいから出してくれないかというようなことで、あのときに本当にみんな協力してくれて、もう五、六十人集まった覚えがあります。だから、もう最終的には百何名になった覚えがあるんですね。

ですから、やっぱり頭で考えていないで、やっぱり行動に移すべきだと思います。だから、力が、町内にいなかったらば、やっぱり隣接町村なり、もっと遠くのところでもいいと思います。そういうところに何らか話しかけていけばよろしいかと思いますが、どうでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

ありがとうございます。貴重なご意見をありがとうございます。そういった、考えてばかりいないで、まずは行動に移してやっていくということも必要かというふうに思います。なおかつ、やはり役場で、役場、町側でやるべきところ、それから実行委員会のそれぞれの団体さんでやっていただく役割とかといった、そういったものを整理しながら、それぞれの強みを生かした中で、参加者の増加につながるような取組を実行委員会の中で一緒に検討していきたいというふうに思っております。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

あと、人の力を借りるならば、大袈引きは結構メディア、テレビでなんかで福島県下に映っているんですよね、終わった後。ですから、終わった後ばかりじゃなくって、やっぱりお金がかかるかもしれないんですけども、テレビ局のコマーシャルで最も派手にやると、もう県内、県外から集まる予定があると思います。それも考えていただきたいと思います。

そのほかに、すみません。終わって、もう一回。いいですか、続けて。駐車場の問題なんですけども、駐車場、交通機関の問題なんですけども、ここにいろいろ隣地とかいろいろ駐車場を集めるのはいい、つくるのはいいんですけども、坂下町は若松から49線、それから柳津からの49線、高田のほうの南幹線と、いろいろ坂下町に入る進入ルートというのは結構あるわけなんです。そこから結局駐車場にどう行くんだという看板がなかったような気がするんですけど、どうでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

ご指摘のとおり、私の記憶の中にも駐車場の案内看板というものは設置していなかったというふうに認識をしております。そういった関係からも、できるだけ分かりやすく誘導ができるようなところについても、今後検討していく課題の一つかなというふうに考えております。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

流し踊りについて伺います。今やっぱりコロナ禍の中でいろいろと問題が起きて、参加人数が減ったというのも分かります。昔、企業さんたちが参加するときに、結局踊りが難しいということは知っているんですけども、企業さんが参加するときに、踊りが分からないから、町にテープ貸しは、カセットテープがないかということで、それを持って行って、企業さんたちが一生懸命練習して参加してくれたと思うんですよ。今、企業さんたちが参加するといっても、そういうふうなあれはあるんでしょうか。申込みは。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

これも私の認識の中だけになってしまうんですが、そういったカセットテープであるとかCDとかという、お貸しをしているということはなかったというふうに私の中では認識をしております。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

参加する団体に声をかけるんじゃなくて、やっぱりそういうふうなサービスというか、こうやって覚えてくださいとか、幼稚園、保育所では専門の踊りの先生じゃないですけど、いて指導してくれるというんだったらば、やっぱり企業さんのほうにもそういうことを言って、坂下のこれが踊りですよということを教えてやってもらったほうが人数が増えると思うんですが、いかがでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

ありがとうございます。私も、私は小さい頃から坂下音頭しか習っていなくて、会津磐梯山が逆に踊れないという年代なんですけれども、やはりかなり難しい踊りだというふうにも認識しておりますので、今、議員のほうからいただいた意見を参考にしながら、実行委員会の中で、どういう体制でそういったこともできるのかということについても検討していく必要があるかなというふうに認識をしております。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

ですので、踊りが、私もちょっとろ覚えだから、結構踊り始めると難しいなと思うんですよ。だから、ましてや今の若い人たちが、そういうのをすぐぱっと行って踊れといってもできない。だから私は踊りをちょっといまふうにアレンジして、全体を変えるというんじゃなくて、アレンジして何か踊りやすいような、磐梯山が踊りづらいたく、それに沿ったようなことを何か考えられたらいいかなというのと、あと、町長の答弁の中に、時代に合った内容や運営方法に変化させていくという言葉が入っております。だから、町長がこう言われているんだから、全部変化しろとは言いませんけども、やっぱり伝統芸能でもありながら、今の時代に合ったような方法に持っていっていいんじゃないかと私は思うんですが、いかがでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

冒頭ちょっと訂正をさせていただきたいと思います。踊り方のDVDなんかは観光物産協会のほうでお貸しをしているということになっているようでございます。

今後やっぱり変化をさせていかなければならない。踊りの形なんかも変化させていかなければならないというところについては、なかなか難しいかなというふうには思います。若い方たちが独自にアレンジをしてとか、そういったこともあるのかなというふうには考えておりますけれども、踊りを変化させていくということがいいのかどうかということもありますので、参加しやすい環境に変化をさせていくとか、団体数を増やして

いくために参加の仕方を少し緩和するだとか、そういったところから変化をさせていきたいというふうに考えているところでございます。

◎ 4 番（物江政博君）

議長、4 番。

◎議長（赤城大地君）

4 番、物江政博君。

◎ 4 番（物江政博君）

細かいことですが、今、参加する団体が自分たちでアレンジして踊るのは、それは容認するというか、構わないよということなんではないでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

私の判断で容認するということは申し上げられません。これにつきましても、実行委員会の中で詰めていかなければ、もんでいかなければならない事項ですので、その部分については私のほうでいいよということとは言えないということで、ご理解をいただきたいと思います。

◎ 4 番（物江政博君）

議長、4 番。

◎議長（赤城大地君）

4 番、物江政博君。

◎ 4 番（物江政博君）

それでは、秋まつりに関してなんですが、現庁舎解体後、秋まつりの仮装行列をどこでやるかという質問をしたわけなんですが、これは先の話になります。新庁舎ができて、旧、ここは解体しますよね。解体しているときというのは、前の道路にも影響があるんじゃないかと思うんですけども、そういうことを踏まえて、必ずここでやるというようなことを言っているのでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

原則というか、基本という形で申し上げている内容でございます。工事の影響等でも

ちろん車道が使えないという状況になれば、また別の案を考えることも必要だろうというふうには思いますので、ただ、どのぐらいの範囲まで工事の影響があるかという部分については、実際やってみないと分からないことでもありますし、秋まつりの時期、9月の間に、例えばその期間だけは工事を中止していただいとかなんかというやり方もあるのかなというふうに思いますので、そういったことについても、今後、検討の余地はあるかなというふうに考えております。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

次、御田植の早乙女踊りの件なんですけども、早乙女クラブというのがあるんですか。すみません、もう一度。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

会津農林高等学校の中に、有志の方たちで集まっていたっている早乙女踊り保存クラブというものがございます。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

この保存クラブというのは、生徒さんだけでなく、外部の方も、OBとか一般の方も入っているクラブなんですか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

保存クラブですので、基本的には生徒さんだけという形になります。

◎ 4 番（物江政博君）

議長、4 番。

◎議長（赤城大地君）

4 番、物江政博君。

◎ 4 番（物江政博君）

第 2 に移ります。

今、答弁では、できるかできないか、何かはっきりしないような、つくれるのかつukれないのか、ちょっと分からないような答弁をいただいたんですけども、実際的には、今、進捗状態はどうなっているのでしょうか。

◎政策財務課長（長谷川裕一君）

議長、政策財務課長。

◎議長（赤城大地君）

長谷川政策財務課長。

◎政策財務課長（長谷川裕一君）

ご質問と答弁の中において、様々、体育館と武道場であるとか、あるいは議員の質問の中の記念館的なものということがございまして、できるかできないかというのは、全てを指してということと捉えてご答弁させていただきます。

どのように活用していくのか。活用するかしないか、できるかできないかという部分においては、羅列しましたけれども、様々な角度の解決すべき課題があるというようなことで考えておりますので、最終的には町としてどのような利活用の方法を図っていくのかという方針、それがまず、来年度をめどにということで答弁もいたしました。その方針を確定した中で、数々の課題をどのようにすればクリアできるのか。あるいはどのような補助なりなんなりが求められていくのか。それに基づいて、今後、将来的な財政計画のほうもどのように影響させていくのかというふうになりますので、今、議員がお受け止めのとおり、今決めかねている、まだ正式な決定に至っていないというのが現状でございます。

◎ 4 番（物江政博君）

議長、4 番。

◎議長（赤城大地君）

4 番、物江政博君。

◎ 4 番（物江政博君）

同僚議員もこの問題に関しては昨日質問があったと思います。やっぱり住民の人の声というのを反映した中でもって動いていただかないと、まずいと思うんですね。行政側だけ、あれだけ、今は行政側だけで動いていると思います。ですから、できるだけ、パブリックコメントじゃないんですけども、やっぱり多く、我々もそうですけども、そういうような意見を取り入れて動いていただきたいと思いますけれども、その点はど

うでしょうか。

◎政策財務課長（長谷川裕一君）

議長、政策財務課長。

◎議長（赤城大地君）

長谷川政策財務課長。

◎政策財務課長（長谷川裕一君）

おっしゃるとおりでございます。我々の進めんとする施策の後押しになったり、あるいはちょっと皆さんが求めているものと違うぞというようなことで歯止めをかけていただけのもの、やはり住民の方々のお考え、お声だと思っております。ただ、どのようにしてお声をお寄せいただくのかと。方法等々については今後検討し、何らかの形で皆さんの声を、生の声をお受けする機会を設けたいと思います。

◎4番（物江政博君）

議長、4番。

◎議長（赤城大地君）

4番、物江政博君。

◎4番（物江政博君）

これで終わります。

◎議長（赤城大地君）

これをもって物江政博君の一般質問を終結いたします。

次に、通告により、7番、佐藤宗太君、登壇願います。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7番、佐藤宗太君。

◎7番（佐藤宗太君）（登壇）

7番、佐藤宗太でございます。通告の順に従いまして、一般質問をいたします。

工業団地造成事業は、日本の高度経済成長期に伴う工場誘致と都市の秩序ある開発や産業振興を目的に、主に昭和30年代後半、1960年代から本格的に開始され、そして、工場を集積させて、企業誘致や地域経済の活性化、住居・工場混在の解消などとして発展してまいりました。

工業団地を造成することで、企業にとっては物流や操業の効率化、地域にとっては雇用の創出、自治体にとっては税制アップなどの相乗効果が期待されます。高度経済成長期に工業団地や自由用地に工場などを立地した企業などは、その建物の老朽化などにより、新たな工場の立地を検討しているところもあるようでございます。また、国際社会の目まぐるしい変化の中で、円安傾向もあり、国内企業の内製化や海外企業の日本進出

の動きも加速しているようでございます。

近年、台湾の半導体グローバル企業の日本進出、熊本での工場造成が話題になりました。熊本県の2023年時の最低時給898円のときに、その企業関連のアルバイトでは、調理補助で時給1,300円以上、資材関連管理で時給1,900円以上など、その地域の所得を大幅に上昇させ、地域経済活性化をもたらしたのは記憶に新しいところです。

そのような社会状況を踏まえ、当町は、既存企業の転出を防ぐため、また、新たな企業誘致による雇用創出、税収増加、そして持続可能な自治体運営のために、具体的にどのように取り組んでいくのか、おただしをするものです。

第1、産業行政について。

1、工業団地造成について。

(1) 過去5年における企業誘致の成果を伺います。

(2) 当町の製造業等は、高度経済成長時に竣工されたものが多く、多くの建物が老朽化し始めており、既存敷地内での建て替えが難しいと思われる企業が少なくありません。また、増設するにも敷地内では難しいと思われる企業が見受けられます。近年の円安傾向の影響により、製造業の国内内製化が再評価され始めている社会情勢の中で、当町における工業団地造成の必要性をどのように認識をしているのか、伺うものです。

(3) 過去に一般質問をした経緯がございますが、工業団地の栄えている真宮工業団地と隣接している当町の敷地内、もしくは利便性の高い国道49号線沿いに工業団地造成をすべきと思うが、昨今の情勢を踏まえた当町の認識を伺うものです。

次に、観光振興についてでございますが、一般社団法人とうほう地域総合研究所によりますと、前回、2015年のふくしまデスティネーションキャンペーン「福が満開、福のしま。」における経済波及効果については、154万人の観光客が福島県を訪れ、県内への経済効果は295億と試算されており、その効果による観光消費は名目国内総生産を0.2%押し上げたものと試算されております。

実行委員会とJRグループは、2026年4月から6月にかけて、福島県内全域で実施する大型観光企画ふくしまデスティネーションキャンペーンは、入り込み客数1,600万人を目標に掲げ、朝や夜の時間帯の企画の充実で宿泊や周遊型の観光を促進し、300を超える特別企画を繰り広げようとしております。当町といたしましても、目標と成果の定義を明確にし、入り込み客数や観光消費額など数値目標を設定し、データに基づいた検証、DC期間中の来客数や消費動向を分析し、一過性のイベントに終わらせず、次年度以降のアフターDCなどにつなげるために、しっかりとデータに基づいた検証をすることが重要ではないでしょうか。

また、世界一ロマンティックな秘境鉄道などと謳われ、国内のみならず海外からも注目されている只見線沿線自治体として、それを活用した経済活性化や、広域観光の取組における当町の役割というものも非常に重要になってくると思われます。

会津地方17市町村でつくる極上の会津プロジェクト協議会で申請している、日本遺産「会津の三十三観音めぐり」が継続審査になり、昨年末にようやく条件付認定になったようでございます。その際の文化庁コメントには、会津三十三観音を構成する各寺院の

関係者が日本遺産のストーリーを十分に理解し、それぞれにおいてストーリー等の紹介を行えるような体制の構築が望まれるとあり、条件には、構成自治体17市町村の連携を深めて、実効性のある体制を整備すること、日本遺産ストーリーと地域資源特性を意識し、民間事業者の活力も取り入れながら取り組むこととされております。

会津三十三観音のうち、当町には、令和6年度実績年間入り込み数6万900名の恵隆寺をはじめ全4観音があります。今回のふくしまデスティネーションキャンペーンは、その町の宝をしっかりとPRをしていくのに絶好の機会ではないでしょうか。ぜひ極上の会津プロジェクト協議会全体により波及効果を与えるような、積極的な取組を期待するものでございます。

今回の福島DCによる経済的効果が一過性にとまらず、会津を再び訪れるリピーターの増による関係人口、交流人口の増加に結びつき、会津の観光が活性することを期待したいと思っております。

そこで、2、観光振興についてですが、(1)福島県では2026年4月から6月まで、JRグループと連携した国内最大級の観光キャンペーン、ふくしまデスティネーションキャンペーンが開催されます。当町の誘客に向けた取組について伺います。

(2)「世界一ロマンティックな秘境鉄道」などと謳われ、国内のみならず海外からも注目されている只見線沿線を活用した広域観光の取組における当町の役割について、伺います。

(3)ふくしまデスティネーションキャンペーンに関連する当町の経済効果や目標値について伺います。

次に、第2、福祉行政についてですが、近年、全国的に孤独死が増加傾向にあり、発見されるまで時間がかかるケースがあるようです。当町も同様であるのではないかと推察されます。生涯未婚者も増加傾向にあり、男性の4名に1人、女性の6名に1人以上は50歳でも未婚となっておりますので、今後も孤独死は増加傾向になると推察されます。

高齢者の孤独死や高齢者世帯の孤立を防ぐためには、社会的なつながりの維持と見守りシステムの活用、そして専門機関などの支援を組み合わせることが必要不可欠ではないでしょうか。当町では様々支援をしているのは存じ上げておりますし、ライフスタイルとしての孤立や、個人の権利としての孤立を求めている方々への予防的対策は困難だと思いますが、現状の課題をどのように認識し、さらなる支援ができないかについておたしをするものでございます。

第2、福祉行政について。

1、当町における孤独死の現状について伺います。

2、一人暮らしを含めた高齢者世帯の現状と支援策について伺います。

以上、壇上よりの質問とさせていただきます。

◎議長（赤城大地君）

答弁願います。

◎町長（古川庄平君）

議長、町長。

◎議長（赤城大地君）

古川町長。

◎町長（古川庄平君）（登壇）

7番、佐藤宗太議員のおただしのうち、私からは、ご質問の第1の1についてお答えいたします。

初めに、1の1についてお答えいたします。

過去5年間における企業誘致の成果でございますが、令和3、4年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により企業の投資意欲が低下し、誘致活動を実施するのが大変困難な状況にございましたが、コロナ禍以前から交渉を進めておりましたバイオマス発電所が令和4年2月に建設に着工し、令和6年12月から稼働しております。また、令和5年度には、運送業の2024年問題を見据えた運送事業者から、国道49号沿いの空き物件や空き地に関する問合せや相談が増加したものの、1件の誘致にとどまっております。

しかし、企業誘致は町民の働く場を創出し、地域経済を持続可能なものとするために不可欠な取組であるとの認識の下、企業誘致条例に掲げる助成措置の対象業種に宿泊業を新たに加え、現在、宿泊事業者と継続的に協議を行っているところであります。今後も企業動向や就職者のニーズ等を的確に捉え、多様な業種を対象とした企業誘致に取り組んでまいります。

次に、（2）及び（3）についてお答えいたします。

工業団地の造成は、企業誘致による雇用の場の創出や地域経済の活性化などにつながる大変重要な取組であると認識しております。議員おただしとおり、円安や不安定な世界情勢等を背景として、製造業を中心に国内回帰の動きが高まっており、本町においても、町内外を問わず新規進出や増設に必要な建設用地に関する相談をいただいている状況にあります。企業ニーズは、交通便利性を優先する企業、広大な用地を求める企業、コスト削減を優先した空き工場等を求める企業など多種多様であります。

工業団地の新規造成につきましては、このような多種多様な企業ニーズに加え、莫大な初期投資が必要であること、企業ニーズとの不一致や近隣自治体の産業団地と競合した売れ残りによる負の財産化などが懸念されることから、現在、造成することは困難と考えます。

しかし、企業誘致を有利に進めていく上で、用地の確保は重要な交渉材料になり得ると思われることから、本町における工業団地の造成につきましては、町内における活用可能な用地を掘り起こし、進出希望企業の要望に沿ったオーダーメイドによる民間開発を基本として進めてまいります。さらに、空き工場等についても掘り起こしを行いながら、積極的な物件情報の提供に努め、新規企業の誘致に向けた幅広い取組を継続的に展開してまいります。

その他のご質問につきましては担当課長に答弁させますので、よろしくお願いいたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

私からは、ご質問の第1の2についてお答えいたします。

初めに、2の（1）についてお答えいたします。

今年4月から6月に開催されるふくしまデスティネーションキャンペーンにおける本町の取組といたしましては、発酵文化や発酵の魅力を発信するイベント、会津坂下発酵祭の開催や、観光ボランティアの皆さんの協力の下、観光案内を行いながら町の観光地を巡る会津ばんげまち歩き、本町出身の漫画家であります高橋ヒロシ先生の作品「クローズ」とコラボレーションしたデザインマンホールスタンプラリーの実施などを予定しております。

また、期間中、役場東分庁舎を観光総合案内所として開所し、町内の観光施設や、食、お土産などの情報提供やノベルティーの配布など、おもてなしを実施する予定であり、町ホームページやSNSなど様々なツールを活用しながら誘客を図ってまいります。

次に、（2）についてお答えいたします。

議員おただしのとおり、JR只見線は国内外から注目される重要な観光資源であり、町内の運行区間においても四季折々の美しい景観を楽しむことができます。既に、奥会津に残る日本の原風景とも言えるすばらしい自然風景を目的に多くの観光客が訪れておりますが、本町の強みである食の魅力を生かし、どう本町へ誘導するかが重要な課題であると認識しておりますので、今後、奥会津地域や観光団体、民間観光会社等と連携した広域的な観光ルートの創設に向け、協議を進めてまいります。

次に、（3）についてお答えいたします。

ふくしまデスティネーションキャンペーンにおける経済効果につきましては、観光に伴う交通機関の利用や宿泊、飲食や物産品の購入など多岐にわたり、観光消費額の増加が期待されます。本町におきましては、入り込み客数を前年度同期間比約45%増の3,600人を目標とし、各種事業を実施してまいります。また、経済効果につきましては、馬刺しや日本酒といった比較的単価が高い物産品もございますので、1人当たりの想定消費単価を5,000円として試算し、期間中、約2,300万円の経済効果を見込んでおります。

また、本キャンペーンを一過性のものとして終わらせず、期間終了後も継続して町に訪れていただくために、おもてなしや各種事業を通し、本町の魅力を強く発信してまいります。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

私からは、ご質問の第2についてお答えいたします。

初めに、1についてお答えいたします。

孤独死とは、ふだんから周囲との交流がなく、地域社会から孤立した状況にある方が、自宅などで誰にもみとられず1人で亡くなることと承知しております。孤独・孤立対策につきましても、令和6年4月に孤独・孤立対策推進法が制定され、孤独・孤立に悩む人を誰一人取り残さない社会、相互に支え合い、人と人とのつながりが生まれる社会を目指し、国、地方自治体、各関係機関が連携して対策に取り組んでいるところです。

本町においては、民生委員・児童委員をはじめとした地域住民の協力を得ながら、悩みや困り事を1人で抱えている方の実態を把握し、相談支援につながるよう努めております。

おただしの孤独死の現状ですが、町で孤独死として把握している事案はございません。しかしながら、行政機関の定期的な訪問や、地域の方々が気かけ見守りをしていた中で、自宅で亡くなっているのが発見された事案は、今年度で6件把握しております。町といたしましては、孤独、孤立する状態をつくらない、支援の必要性を吸い上げることができる環境づくり、地域の見守りや近隣との関わりの機会を確保し、社会や他者とのつながりをより緊密に保てるよう、今後も取り組んでまいります。

次に、2についてお答えいたします。

本町の令和8年1月時点の総人口は1万3,896人、65歳以上の人口は5,528人と、町の人口に占める高齢化率は39.8%となっております。そのうち1,262人が独り暮らしの高齢者世帯であり、高齢者人口の増加に伴い、孤立や経済的な困窮など様々な問題が年々深刻化しております。そのような中、認知症高齢者と介護する家族への支援や、独り暮らしの高齢者に対する権利擁護、安否確認を含めた在宅生活支援など、地域で支える仕組みづくりが大変重要となっております。

町では、包括支援センターへの委託事業として、高齢者本人や本人家族から生活や介護の悩み事相談を受ける総合相談支援事業や、虐待対応や成年後見制度の活用促進のための権利擁護事業を実施しております。その上で、支援が困難な高齢者や障がい者を対象に、町を含めて対応を検討するための地域ケア会議を月1回定例で実施し、関係者間で情報共有と支援の方向性について話し合う機会を設けております。

また、その他の委託事業として、独り暮らしや寝たきり高齢者の在宅生活継続事業として、寝具乾燥消毒サービスや、緊急通報装置給付事業、高齢者訪問サービス事業、一人暮らし高齢者ごみ回収事業なども実施しております。特にごみ回収事業は、ごみ集積所へごみを出すことができない独り暮らし高齢者や高齢者世帯夫婦に対して、委託した障がい者支援事業所による自宅への週1回の直接訪問回収事業で安否確認を兼ねており、令和8年1月現在での登録者は24人です。今年度は、自宅で倒れている利用者が発見され、救急搬送につながった事例が1件ございました。回収車にはAEDを搭載しており、回収員は使い方の講習を受けております。

今後も、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、みんながつながる地域共生社会の実現に向けて、在宅生活が継続できる具体的な支援策を進めてまいります。

◎議長（赤城大地君）

休憩のため休議といたします。

（午後 1 時53分）

再開を 2 時 5 分といたします。

（休議）

◎議長（赤城大地君）

再開いたします。

（午後 2 時05分）

再質問があればお願いいたします。

◎ 7 番（佐藤宗太君）

議長、7 番。

◎議長（赤城大地君）

7 番、佐藤宗太君。

◎ 7 番（佐藤宗太君）

再質問をさせていただきます。

第 1 の 1、工業団地造成についてでございますが、先ほど答弁の中で、過去 5 年における成果ということで答弁がございましたが、その内容についてどのように評価しているのか、おただしいたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

成果の評価につきましては、基準となる目標設定というものを明確に数値化しているものはございませんので、1 件でも 2 件でも、誘致につながれば成果が十分あったなというふうな評価ができるのかなというふうに考えております。

◎ 7 番（佐藤宗太君）

議長、7 番。

◎議長（赤城大地君）

7 番、佐藤宗太君。

◎ 7 番（佐藤宗太君）

目標設定がないので評価が難しいと思いますが、やっぱり K P I は定めるべきではな

いかと思いますが、いかがでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

議員がおっしゃるとおりだというふうに考えております。いろいろな現状の中で、なかなか企業誘致も厳しいという状況にあるかというふうに認識はしておりますけれども、目標があつてやはり進めていくんだというふうに考えておりますので、その辺については目標設定を含めて今後進めていきたいというふうに考えております。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7番、佐藤宗太君。

◎7番（佐藤宗太君）

先ほど申し上げましたが、企業誘致のみならず、私は造成というのは転出をされる対策にもなると思っております。町内の企業さんを先ほど申し上げましたが、かなり老朽化している工場等もございまして、将来どうするのか様々な検討をなされている企業さんがあるようですので、例えば、造成するにはもちろん初期投資がかかるので、非常にコストがかかって大変だというような答弁もございましたが、コストをかけても、しっかりとそこを利用していただけるような事前の調査だったり準備だったりというのはできるのではないかと思いますので、その辺りの考え方についておたじいたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

ありがとうございます。議員おたじのとおりだというふうに考えております。財政的に厳しいからできないということではなくて、じゃあ、財政がよくなってきたらやるのかということも一つの選択肢になるかというふうに思います。今、町内の既存企業さんの中で、増設をこれまでもやってこられた企業さんもいらっしゃいますし、これから考えている企業さんもいるかというふうに思います。その辺につきましては、毎年4月当初に企業訪問ということでいろんな企業さんを回らせていただいて、その辺のニーズについてもお聞きをしているような段階でございますので、そういったものをもう少し充実をさせながら、既存企業さんの今後の方向性なりニーズというものをしっかり捉

えていきたいというふうに考えます。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7番、佐藤宗太君。

◎7番（佐藤宗太君）

企業さんも恐らくいろんな自治体の企業誘致の情報を持っていると思いますので、やっぱり年度初めのみならず、しっかりと企業さんの意を酌み取れるような信頼関係を職員の方が築いたりですとか、ふだん入らないような情報をしっかりと入るようなネットワーク構築というのも必要だと思いますので、ぜひその辺り、当町は過去に、規模拡大したい工場さん、工場、企業さんを転出させてしまった経緯もございますので、しっかりその対策をやっぱりしていただきたいと切に願っていますが、再度、そのことに対しておただししたいと思います。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

そのとおりであるというふうに考えております。新規企業を誘致していくというの、雇用の場、町民の方々の雇用の場の創出、それから経済活動による地域の活性化というような重要な要素も含んでおります。そのほかに、町内の企業さんにおかれても、地域の雇用を担っていただいているという部分もございますし、経済的なところも担っていただいているというふうに考えておりますので、今、議員がおっしゃった信頼関係というものをしっかりつくれるように、年1回ではなくて、その都度なり、定期的なやり方もあるかと思いますが、そういったことを地道にやっていけるように、ちょっと模索をしていきたいなというふうに今考えているところでございます。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7番、佐藤宗太君。

◎7番（佐藤宗太君）

なかなか大変だとは思いますが、町の持続的な発展には欠かせないことだと思いますので、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

先ほど答弁の中で、進出希望企業の要望に合ったオーダーメイドによって、民間開発を基本として進めていきたいというような方針を示されましたが、実際、企業さんが進

出する速度と、多分オーダーメードで条件が整うまでの時間差というのが多分かなりあって、どの自治体でもそうかもしれませんが、いい話があっても、なかなかタイミングが合わなくて、速度感の齟齬があって対応できないというケースが非常に多いのではないかと思います。

過去に当町においてオーダーメード方式で成功した例というのはあるのでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

オーダーメード方式で民間開発による工業用地を開発したという経緯は、現在までございません。

◎7 番（佐藤宗太君）

議長、7 番。

◎議長（赤城大地君）

7 番、佐藤宗太君。

◎7 番（佐藤宗太君）

様々な課題ですとか初期投資の問題等はあると思いますが、明らかに成果を生まないだろう方式を基本としていくという姿勢というのは、いささか懸念されるのではないかと思います。その辺り、いかがでしょうか。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

議員おただしのとおり、企業が進出したいスピード感なりというものもあって、現実的にこのオーダーメード方式による民間開発というものが有効なのかどうかという部分については、かなり検証も必要であるかなというふうには考えます。ただ、町といたしましては、今持っている資源として、工業団地的なものも持っていない。ただ、未活用地として把握している部分はあるというところから考えますと、スピード感的にも、一番マックスでスピード感を持ってできる方法として挙げられるものとしては、これしかないかなというのが町の考えでございます。

◎7 番（佐藤宗太君）

議長、7 番。

◎議長（赤城大地君）

7 番、佐藤宗太君。

◎7 番（佐藤宗太君）

なかなか行政の仕組み上といいますか、予算措置とかも含めて、民間と違う速度感で動くというところで、難しいところはあると思いますが、先ほど申し上げたように、企業誘致のみならず、転出する企業さんを防ぐというのも非常に大事な役割ではないかと思いますので、容易ではないことは重々理解しておりますが、積極的な取組を期待したいと思います。

次に、2 の観光振興についてでございますが、先ほど答弁の中で、発酵祭を昨年引き続き継続し進化させていくようなお話がございました。私も大いに期待をしております。県のほうも、2023年ですかね、発酵ツーリズムということで福島県内で打ち出しております、県内でも福島市では土湯温泉が温泉と発酵。昨日、同僚議員からもありましたが、喜多方市でもそのような取組をしており、七日町辺りでも、2024年9月ですかね、発酵のスタンプラリーというのを開催したり、様々な取組が行われております。

小野町は発酵の第一人者でございます小泉先生の出身の地ということで、2021年から協議会を立ち上げて、発酵のまちづくりを積極的に取り組んでいるということで、福島全体が盛り上がりればいいなと思っておりますが、他の地域でも様々な取組をする中で、当町ではDCも絡めた発酵祭、どのような特異性を出していくのかについておたいたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

特異性というところでございますけれども、味噌、それからお酒という部分については、やっぱり発酵を柱としている他の自治体でも多くあるかなというふうに思いますが、ほかの自治体と特に違うというところについては、ヨーグルトという、会津唯一の牛乳屋さんがあって、そこで独自にヨーグルトを作っている。全国的にも人気の高い、メディアでも取り上げられるようなヨーグルトがあるということで、そういったところも一つの特徴であり、特異性かなというふうに考えているところでございます。

◎7 番（佐藤宗太君）

議長、7 番。

◎議長（赤城大地君）

7 番、佐藤宗太君。

◎7 番（佐藤宗太君）

私もヨーグルトの発酵というのがほかの地域とはちょっと違うのかなというところで、

坂下の優位性が保てるのではないかと考えているところではございますが、お酒とか醤油、味噌というのは全国的にある程度いろんな地域にある中で、ヨーグルトだったり、あとはパンの発酵も、地域によってはパン屋さんがいろんなところにございますが、当町にもそういうようなパンの工房があるということで、非常に優位性はあるのかなと考えております。

その中で、既にお酒だったりですとか、食品加工会社だったり、味噌、醤油の醸造関係は、もう既にある意味全国的に名が売れていると思います。その中で、企業さんのご努力により、むしろ企業さんが坂下の名前を全国的に売ってくれていると言っても過言ではないと思いますが、その中で坂下町はどのように携わって盛り上げていくことができるのかについて、おたじいたします。

◎産業課長（渡部 聡君）

議長、産業課長。

◎議長（赤城大地君）

渡部産業課長。

◎産業課長（渡部 聡君）

町がどのように携わっていくのかということかなというふうに受け止めましたけれども、このDCだけではなくて、この発酵文化というものを町の大きな柱に据えて、これを一過性で終わらせない取組を様々継続していくと。それを町が主導しながら、関係団体や企業さんなんかも含めて、先導しながらやっていくというのが、やはり町に求められる役割なのかなというふうに考えております。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7番、佐藤宗太君。

◎7番（佐藤宗太君）

取組自体はすごく期待するところでございますが、やっぱり日本のトップランカーとして走っている企業さんたちが当町にもございますので、町が関わることにに関して、もちろんそこを否定するわけではありませんが、やっぱりしっかりとスタッフも知識を十分に入れた中で、貴重な会議の時間とか、今後、協議会ができるか分かりませんが、私も同僚議員同様に協議会とかがあったほうがいいと思っているんですが、その中で、やっぱり目指すべき姿を、行政主導にはなるかもしれませんが、何を望んでおられるのか。もう既に坂下の名前を全国に売ってくれている企業さんたちが何を求めているのかという観点からも、お互いに理解し合って、いい方向に進んでいただきたいと切に望むところですので、しっかりと、その方々と話すときには、最低限の知識は入れて、貴重な時間を無駄にさせないようにしていただきたいと思います。

次に、第2の福祉行政についてでございますが、先ほど、孤独死はいませんが、後か

ら見つかった例は6件あるということで答弁をいただきました。亡くなったのを様々な機会で見るといえることはあると思いますが、当町でも大分日がたって発見されたというような話を聞き及んでいますが、実際最長で、もし分かればなんですが、何日ぐらいたってから発見されたのが当町での最長の日数なのかが分かれば、お知らせいただきたいと思います。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

亡くなってから発見されたまでの期間がどのくらいかというのは、正確に把握しておりませんが、1か月以上たっていたのではないかとと思われるようなものもございました。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7番、佐藤宗太君。

◎7番（佐藤宗太君）

当町で、見守りですとか様々な、昼食のサービスとかも行っていると思いますが、1か月以上かかってしまった主たる理由というのはどのように考えているのでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

長期間にわたって自宅で亡くなっているのが発見されなかった方というのは、いろんな事業とのつながりとか、あるいは町のほうで支援が必要だというふうに把握していなかった方などが、そういったものに該当してきております。定期的に訪問したり、町のほうに関わっているのであれば、そこまで間を空けるということはないですけども、なかなか網に引っかかってこないような方が亡くなっていて、ちょっと周りの方が、ちょっと最近家の周りの様子がおかしいということで駆けつけたところ、亡くなっていたというようなことがございました。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7 番、佐藤宗太君。

◎ 7 番（佐藤宗太君）

なかなか人と接したくないというか、それを望む方に対しては非常に対応が難しいと思いますが、今の話を聞くと、様々なことに引っかからなかったということであれば、何というんですかね、孤独死でないということには当てはまらないんじゃないかなと思うんですけど、その辺りの考え方といいますか、町の見解について再度おたいたします。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

周囲との関わりが全くない孤立した状態ということではなく、完全に自分で空間を閉ざしているということではなくて、外出する機会とかもあって、周りの方の目に触れることもあるような方であったんですけども、しばらく周りとの接点が得られなかったということで、完全に、まあ、明確な孤独死の定義というものではないんですけども、町で承知している孤独死というものには当てはまらないのかなというふうには捉えているところでございます。

◎ 7 番（佐藤宗太君）

議長、7 番。

◎議長（赤城大地君）

7 番、佐藤宗太君。

◎ 7 番（佐藤宗太君）

ちょっと定義は難しいところがありますが、何を言いたいかといいますと、やっぱり発見されるまで1か月以上かかるということ自体が、ちょっとどうなのかなと。様々なサービスを当町でしている、その網に引っかからなかったというような話ですが、だとすれば、町として受けていただけるサービスを、その方に適切にもしかしたら伝え切れていなかったのではないかと、様々なことがもしかしたらできたのではないかと、というようなことを感じるところがございますし、やっぱり高齢の方、独り暮らしの方とお話しさせていただくと、やっぱりそのような事例というか、独りで亡くなっていたというような話を聞き及んでいる方々は、どうしても独り暮らしだと不安になってしまっている方が非常に多いように感じます。

私が聞かれたときは、町の様々な制度はもちろんお伝えしておりますが、恐らくそういう方はまだまだいるのではないかと思いますので、再度、独り暮らしの高齢者の方ですとか、夫婦かもしれませんが、ある程度年齢のいった老夫婦、高齢夫婦の方々に、しっかりと町の制度だったり、町で対応し切れないようなことも、県、国の制度であっ

たりすると思いますので、しっかりと伝えていただきたいと思います。いかがでしょうか。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議長、生活課長。

◎議長（赤城大地君）

五十嵐生活課長。

◎生活課長（五十嵐隆裕君）

議員おただしのとおり、高齢者世帯にかかわらず、独り暮らしの世帯というものにしましては、いつ亡くなるか分からない。それで、いつ発見されるか分からないという状態がございます。ですから、高齢者に限らず、もう少し範囲を広げて、そういった独り暮らしの世帯の方の状況も把握して、必要な支援が届けられないかとか、そういったことに努める余地もあろうかと思います。

先ほど申し上げました、1か月以上発見ができなかったという方というのは、60をちょっと過ぎた方なんです。ですので、こちらのほうで高齢者の独り暮らしという世帯というような捉え方もしていなかったのも、発見も遅れてしまったということはあるんですけども、独り暮らしで、きちんと自立した生活が送られていないのではないかと思います。そのような世帯も、こちらのほうできちんと把握をして、必要な支援が届けられるような仕組みづくり、もちろん民生・児童委員の方の協力も得ながら、そういった関わりを持ち続けられるような社会環境を整えてまいりたいと考えております。

◎7番（佐藤宗太君）

議長、7番。

◎議長（赤城大地君）

7番、佐藤宗太君。

◎7番（佐藤宗太君）

民生委員の方ですとか企業さんと様々な協力体制を築いていると思いますので、ぜひとも、坂下に住んでよかったと独り暮らし高齢者の方々が思えるように、さらなる対策を取っていただくことを切に願い、一般質問を終わらせていただきます。

◎議長（赤城大地君）

これをもって佐藤宗太君の一般質問を終結いたします。

以上をもって本定例会の一般質問を終わります。

本日の日程は終了いたしました。

明日4日は午前10時より両常任委員会を開きます。5日は休会であります。6日は午前10時から予算特別委員会を開きます。7日、8日は休会であります。9日は午前10時から予算特別委員会、終了後、議会全員協議会を開きます。10日は休会であります。11日は午前9時半より議会全員協議会、午前10時より本会議を開きます。11日の議事日程

は当日配付いたします。

◎散会の宣告

◎議長（赤城大地君）

本日は、これをもって散会いたします。

ご苦労さまでした。

（散会 午後 2 時29分）

◎書記（松本 功君）

事務局より申し上げます。明日 4 日に開催されます両常任委員会の開催場所を申し上げます。総務産業建設常任委員会は北庁舎会議室、文教厚生常任委員会は大会議室となります。

引き続き、事務局より申し上げます。直ちに広報広聴特別委員会を開催しますので、関係者は中会議室にご参集願います。

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

令和8年3月3日

会津坂下町議会議長

同 議員

同 議員